

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度 経度	42° 57' 34.2"	144° 4' 50.32"
公園通り1号橋 (フリガナ)コウエンドオリ1ゴウハシ	公園通り	北海道白糠町東2北2				
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
北海道白糠町	2017.10.04	オクネツ川	有	一般道	その他	

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)

点検者				点検責任者		
道土木・デザイン・和光・太平洋総合特定委託業務共同企業体				和田 隆宏		
点検時に記録				措置後に記録		
部材名	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	措置後の 判定区分	変状の種類	措置及び判定 実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ				
	横桁					
	床版	Ⅰ				
下部構造	Ⅱ	ひびわれ	写真004,下部工01			
支承部	Ⅰ					
その他	Ⅱ	漏水・滞水	写真006,伸縮装置02			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

点検時に記録		措置後に記録	
(判定区分)	(所見等) 機能回復対策として下部工ひびわれ補修、漏水対策として伸縮取替を実施することが望ましい。	(再判定区分)	(再判定実施年月日)
Ⅱ			

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1985年	10m	10.50m
起点		
		
終点		

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	42° 57′ 45.48″	
				経度	144° 4′ 9.48″	
栄橋 (フリガナ)サカエバシ	栄橋通り	北海道白糠町西1北6				
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
北海道白糠町	2017.11.07	茶路川	有	一般道	その他	

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)				点検者	道土木・デザイン・和光・太平洋総合特定委託業務共同企業体	点検責任者	和田 隆宏
点検時に記録				措置後に記録			
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ 以上の場合 に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	措置後の 判定区分	変状の種類	措置及び判定 実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ					
	横桁	Ⅰ					
	床版	Ⅰ					
下部構造		Ⅱ	うき・剥離・鉄筋露出	写真004,下部工02			
支承部		Ⅱ	支承部の機能障害	写真005,支承部201			
その他		Ⅱ	漏水・滞水	写真006,伸縮装置02			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)				措置後に記録	
点検時に記録					
(判定区分)	(所見等)	機能回復対策として下部工断面補修、沓座モルタル補修、漏水対策として伸縮取替を実施することが望ましい。		(再判定区分)	(再判定実施年月日)
Ⅱ					

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員			
1988年	229m	9.75m			
起点					終点

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	42° 57′ 50.99″	
				経度	144° 4′ 30.36″	
栄橋通り1号橋 (フリガナ)サカエバシドオリ1ゴウハシ	栄橋通り	北海道白糠町東2北5				
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
北海道白糠町	2017.10.04	オクネツ川	有	一般道	その他	

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)				点検者	道土木・デザイン・和光・太平洋総合特定委託業務共同企業体	点検責任者	和田 隆宏
点検時に記録				措置後に記録			
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合 に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	措置後の 判定区分	変状の種類	措置及び判定 実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ					
	横桁						
	床版	Ⅰ					
下部構造		Ⅱ	漏水・遊離石灰	写真004,下部工01			
支承部		Ⅱ	土砂詰まり	写真005,支承部203			
その他		Ⅱ	漏水・滞水	写真006,伸縮装置01			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)			
点検時に記録		措置後に記録	
(判定区分) Ⅱ	(所見等) 機能回復対策として下部工ひびわれ補修、漏水対策として伸縮取替を実施することが望ましい。	(再判定区分)	(再判定実施年月日)

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員			
1987年	11m	6.0m			
起点					終点

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	42° 57' 46.61"		
				経度	144° 4' 36.47"		
無名橋 (フリガナ)ムメイバシ	北4丁東2号通り	北海道白糠町東2北4					
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)	
北海道白糠町	2017.10.07	オクネツ川	有	一般道	その他		

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)

点検者				点検責任者		
道土木・デザイン・和光・太平洋総合特定委託業務共同企業体				和田 隆宏		
点検時に記録				措置後に記録		
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合 に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	措置後の 判定区分	措置及び判定 実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ				
	横桁	Ⅰ				
	床版	Ⅰ				
下部構造		Ⅰ				
支承部		Ⅰ				
その他		Ⅰ				

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

点検時に記録		措置後に記録	
(判定区分)	(所見等) 損傷は軽微であるため、経過観察とする。	(再判定区分)	(再判定実施年月日)
Ⅰ			

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1986年	11m	1.20m

起点



終点

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	42° 57' 41.8"	
				経度	144° 4' 46.02"	
傳蔵橋 (フリガナ)デンゾウバシ	北3丁東4号通り	北海道白糠町東2北3				
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
北海道白糠町	2017.10.04	オクネツ川	有	一般道	その他	

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)				点検者	道土木・デザイン・和光・太平洋総合特定委託業務共同企業体	点検責任者	和田 隆宏
点検時に記録				措置後に記録			
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合 に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	措置後の 判定区分	変状の種類	措置及び判定 実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ					
	横桁	Ⅰ					
	床版	Ⅰ					
下部構造		Ⅱ	漏水・遊離石灰	写真004,下部工02			
支承部		Ⅱ	腐食	写真005,支承部105			
その他		Ⅱ	漏水・滞水	写真006,伸縮装置02			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)				措置後に記録	
点検時に記録					
(判定区分)	(所見等)	防食対策として支承、排水管の塗替塗装、機能回復対策として沓座		(再判定区分)	(再判定実施年月日)
Ⅱ	モルタル補修、舗装すりつけ、漏水対策として伸縮取替を実施することが望ましい。				

全景写真(起点側、終点側を記載すること)		
架設年次	橋長	幅員
1988年	13m	10.0m
起点		
		
終点		

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度 経度	42° 57' 36.55" 144° 4' 48.93"	橋梁ID
若葉橋 (フリガナ)ワカバシ	若葉通り	北海道白糠郡白糠町東2北2				42.96015,144.08025
管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
北海道白糠町	2021.09.04	オクネップ川	無	一般道	その他	水道

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)

定期点検者

道土木・ダイシン・和光・太平洋総合・山下コンサル JV 黒田 秀忠

定期点検時に記録

応急措置後に記録

部材名	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	応急措置後の 判定区分	応急措置内容	応急措置及び 判定実施年月日
上部構造						
主桁	Ⅰ					
横桁						
床版	Ⅰ					
下部構造	Ⅰ					
支承部	Ⅰ					
その他	Ⅱ	漏水・滞水	写真006,伸縮装置01			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

定期点検時に記録

(判定区分)	(所見等)
Ⅰ	健全ではあるが、予防保全の観点から伸縮装置、高欄、排水装置、舗装の補修を実施することが望ましい。その他、床版、下部工、縁石、添架物については損傷の進行を確認していくことが望ましい。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1983 年	8.4 m	10.5 m
橋梁形式		
プレテン床版橋、重力式橋台直接基礎2基		

起点



終点

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度 経度	42° 57' 23.31" 144° 4' 51.31"	橋梁ID
東橋 (フリガナ)ヒガシハシ	北1丁通り	北海道白糠郡白糠町南1東4				42.95647,144.08091
管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
北海道白糠町	2021.09.08	オクネップ川	有	一般道	その他	

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)

定期点検者

道土木・ダイシン・和光・太平洋総合・山下コンサル JV 黒田 秀忠

定期点検時に記録

応急措置後に記録

部材名	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	応急措置後の 判定区分	応急措置内容	応急措置及び 判定実施年月日
上部構造						
主桁	Ⅰ					
横桁	Ⅰ					
床版	Ⅱ	床版ひびわれ	写真003,床版01			
下部構造	Ⅱ	ひびわれ	写真004,下部工01			
支承部	Ⅲ	腐食	写真005,支承部101			
その他	Ⅱ	舗装の異常	写真006,舗装01			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

定期点検時に記録

(判定区分)	(所見等)
Ⅲ	早期措置の観点から、支承部の補修を早期に実施する。予防保全の観点から、床版、舗装の補修を実施することが望ましい。主桁、横桁、地覆、排水装置については損傷の進行を確認していくことが望ましい。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1977 年	9.6 m	5 m
橋梁形式		
鋼溶接 H形鋼(合成)橋、小橋台杭基礎2基		

起点



終点

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度 経度	42° 57' 21.83" 144° 4' 39.86"	橋梁ID
白糠跨線橋 (フリガナ)シラヌカコセンキョウ	跨線橋通り	北海道白糠郡白糠町東2南1				42.95606,144.07773
管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
北海道白糠町	2022.01.18	根室本線	有	一般道	その他	

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)

定期点検者

道土木・ダイシン・和光・太平洋総合・山下コンサル JV 黒田 秀忠

定期点検時に記録

応急措置後に記録

部材名	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合 に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	応急措置後の 判定区分	応急措置内容	応急措置及び 判定実施年月日
上部構造						
主桁	Ⅲ	腐食	写真001,主桁01			
横桁	Ⅲ	腐食	写真002,横桁02			
床版	Ⅲ	腐食	写真003,床版01			
下部構造	Ⅰ					
支承部	Ⅲ	腐食	写真005,支承部102			
その他	Ⅲ	腐食	写真006,高欄・防護柵01			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

定期点検時に記録

(判定区分)	(所見等)
Ⅲ	早期措置の観点から、主桁、横桁、床版、支承部、防護柵、地覆の補修を早期に実施する。予防保全の観点から、排水装置、舗装の補修を実施することが望ましい。横構、下部工、添架物については損傷の進行を確認していくことが望ましい。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1972 年	61.1 m	1.5 m
橋梁形式		
単純鋼溶接 H形鋼(非合成)橋×2連+連続鋼溶接 H形鋼(非合成)橋、その他(橋台)杭基礎2基、柱橋脚1柱円(鋼製)杭基礎2基		

起点



終点

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	42° 57' 24.73"	
				経度	144° 5' 27.88"	
シラリカップ1号橋 (フリガナ)シラリカップ1ゴウキョウ	岬通り	北海道白糠町岬				
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
北海道白糠町	2017.10.07	シラリカップ川	有	一般道	その他	

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)				点検者	道土木・ダイシン・和光・太平洋総合特定委託業務共同企業体	点検責任者	和田 隆宏
点検時に記録				措置後に記録			
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合 に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	措置後の 判定区分	変状の種類	措置及び判定 実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ					
	横桁						
	床版	Ⅱ	漏水・遊離石灰	写真003,床版01			
下部構造		Ⅰ					
支承部		Ⅰ					
その他		Ⅱ	漏水・滞水	写真006,伸縮装置01			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)				措置後に記録	
点検時に記録				(再判定区分)	(再判定実施年月日)
(判定区分) Ⅱ	(所見等)	漏水対策として橋面防水、伸縮取替、防食対策として排水管の塗替塗装を実施することが望ましい。			

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1989年	15m	6.50m

起点



終点

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	42° 57′ 31.98″	
				経度	144° 5′ 21.37″	
シラリカップ2号橋 (フリガナ)シラリカップ2ゴウキョウ	岬通り	北海道白糠町岬				
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
北海道白糠町	2017.10.16	シラリカップ川	有	一般道	その他	

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)				点検者	道土木・ダイシン・和光・太平洋総合特定委託業務共同企業体	点検責任者	和田 隆宏
点検時に記録				措置後に記録			
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合 に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	措置後の 判定区分	変状の種類	措置及び判定 実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ					
	横桁						
	床版	Ⅱ	漏水・遊離石灰	写真003,床版01			
下部構造		Ⅱ	ひびわれ	写真004,下部工01			
支承部		Ⅰ					
その他		Ⅱ	漏水・滞水	写真006,伸縮装置02			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)				措置後に記録	
点検時に記録					
(判定区分)	(所見等)	漏水対策として橋面防水、伸縮取替、防食対策として排水管の塗替塗装を実施することが望ましい。		(再判定区分)	(再判定実施年月日)
Ⅱ					

全景写真(起点側、終点側を記載すること)		
架設年次	橋長	幅員
1990年	17m	6.50m
起点		
		
終点		

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	42° 57' 26.57"		
				経度	144° 6' 17.66"		
刺牛橋 (フリガナ)サシウシバシ	刺牛2丁3号通り	北海道白糠郡白糠町刺牛					
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)	
北海道白糠町	2018.09.10	シツナイ川	有	一般道	その他		

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)

点検者				点検責任者		
道土木・ダイシン・和光・太平洋総合特定委託業務共同企業体				和田 隆宏		
点検時に記録				措置後に記録		
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	措置後の 判定区分	措置及び判定 実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ				
	横桁	Ⅰ				
	床版	Ⅰ				
下部構造		Ⅰ				
支承部						
その他		Ⅱ	路面の凹凸	写真006,舗装01		

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

点検時に記録		措置後に記録	
(判定区分)	(所見等) 道路橋の機能に支障が生じる損傷は見られないが、維持の対応による路面段差補修の実施が望ましい。	(再判定区分)	(再判定実施年月日)
Ⅰ			

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
2000年	6m	4.0m
起点		
		
終点		

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	42° 57′ 23.31″	
				経度	144° 4′ 51.31″	
日の出橋 (フリガナ)ヒノデバシ	茶路2号線	北海道白糠郡白糠町東2北8				
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
北海道白糠町	2018.09.19	オクネツ川	有	一般道	その他	

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)				点検者	道土木・デザイン・和光・太平洋総合特定委託業務共同企業体	点検責任者	和田 隆宏
点検時に記録				措置後に記録			
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合 に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	措置後の 判定区分	変状の種類	措置及び判定 実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ					
	横桁						
	床版	Ⅰ					
下部構造		Ⅰ					
支承部		Ⅰ					
その他		Ⅱ	防食機能の劣化	写真006,排水装置01			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)				措置後に記録	
点検時に記録					
(判定区分)	(所見等)	道路橋の機能に支障が生じる損傷は見られないが、必要に応じて		(再判定区分)	(再判定実施年月日)
Ⅰ	排水管の塗替え塗装が望ましい。				

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1998年	12m	7.50m

起点



終点

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度 経度	42° 58' 26.14" 144° 4' 18.85"	橋梁ID
川端線1号橋 (フリガナ)カワバタセン1ゴウバシ	茶路川端線	北海道白糠町茶路基線				42.97392,144.07190
管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
北海道白糠町	2021.09.08	オクネップ川	無	一般道	その他	

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)

定期点検者

道土木・ダイシン・和光・太平洋総合・山下コンサル JV 黒田 秀忠

定期点検時に記録

応急措置後に記録

部材名	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に 記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	応急措置後の 判定区分	応急措置内容	応急措置及び 判定実施年月日
上部構造	Ⅰ					
主桁						
横桁						
床版						
下部構造	Ⅱ	うき・剥離・鉄筋露出	写真004,下部工01			
支承部						
その他	Ⅱ	変形・欠損	写真006,地覆01			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

定期点検時に記録

(判定区分)	(所見等)
Ⅱ	予防保全の観点から、下部工(側壁)、地覆、舗装、擁壁の補修を実施することが望ましい。その他、主桁(頂版)、防護柵については損傷の進行を確認していくことが望ましい。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1985 年	4.1 m	7.5 m
橋梁形式		
RC溝橋(BOXカルバート)、その他(橋台)直接基礎2基		

起点



終点

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度 経度	42° 57' 25.44" 144° 4' 51.6"	橋梁ID
立正橋 (フリガナ)リッショウバシ	東山団地通り	北海道白糠郡白糠町東3北1				42.95706,144.08099
管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
北海道白糠町	2021.09.06	オクネップ川	無	一般道	その他	

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)

定期点検者

デザイン設計補 本間様・渡部様 和光技研補 長坂様 太平洋総 黒田 秀忠

定期点検時に記録

応急措置後に記録

部材名	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合 に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	応急措置後の 判定区分	応急措置内容	応急措置及び 判定実施年月日
上部構造	Ⅲ	うき・剥離・鉄筋露出	写真001,主桁02			
主桁						
横桁						
床版						
下部構造	Ⅲ	うき・剥離・鉄筋露出	写真004,下部工01			
支承部	Ⅰ					
その他	Ⅱ	漏水・滞水	写真006,伸縮装置01			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

定期点検時に記録

(判定区分)	(所見等)
Ⅲ	早期措置の観点から、主桁、下部工の補修を早期に実施する。予防保全の観点から、伸縮装置、地覆、舗装の補修を実施することが望ましい。支承部、防護柵については損傷の進行を確認していくことが望ましい。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1978 年	8 m	5 m
橋梁形式		
RC桁橋(その他)、その他(橋台)直接基礎2基		

起点



終点

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	42° 57' 32.96"		
				経度	144° 4' 52.26"		
東山橋 (フリガナ)ヒガシヤマバシ	東山団地通り	北海道白糠郡白糠町東3北1					
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)	
北海道白糠町	2018.09.19	オクネツ川	有	一般道	その他		

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)

点検者				点検責任者		
道土木・デザイン・和光・太平洋総合特定委託業務共同企業体				和田 隆宏		
点検時に記録				措置後に記録		
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	措置後の 判定区分	措置及び判定 実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ				
	横桁					
	床版	Ⅰ				
下部構造		Ⅰ				
支承部		Ⅰ				
その他		Ⅰ				

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

点検時に記録		措置後に記録	
(判定区分)	(所見等)	(再判定区分)	(再判定実施年月日)
Ⅰ	2017年に架換。道路橋の機能に支障が生じる損傷およびその他の軽微な損傷も見られない。		

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
2017年	12m	5.0m
起点  終点		

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	42° 57' 36.86"		
				経度	144° 3' 33.36"		
モトッペ1号橋 (フリガナ)モトッペ1ゴウハシ	高校北1号通り	北海道白糠町西4北2					
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)	
北海道白糠町	2017.10.04	辰辺川	無	一般道	その他		

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)

点検者				点検責任者		
道土木・デザイン・和光・太平洋総合特定委託業務共同企業体				和田 隆宏		
点検時に記録				措置後に記録		
部材名	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合 に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	措置後の 判定区分	変状の種類	措置及び判定 実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ				
	横桁					
	床版	Ⅰ				
下部構造	Ⅰ					
支承部	Ⅰ					
その他	Ⅱ	防食機能の劣化	写真006,排水装置01			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

点検時に記録		措置後に記録	
(判定区分)	(所見等) 構造物の機能に支障が生じる損傷は見られないが、防食対策として 排水管の塗替塗装を実施することが望ましい。	(再判定区分)	(再判定実施年月日)
Ⅰ			

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員	起点		終点
1994年	17m	4.0m			

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度 経度	42° 58' 34.15" 144° 7' 47.2"	橋梁ID
西庶路跨線橋 (フリガナ)ニシショロコセンキョウ	西庶路西1条通り	北海道白糠郡白糠町西庶路西1南2				42.97615,144.12977
管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
北海道白糠町	2022.01.25	根室本線	有	一般道	その他	

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)

定期点検者

道土木・デザイン・和光・太平洋総合・山下コンサル JV 黒田 秀忠

定期点検時に記録

応急措置後に記録

部材名	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合 に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	応急措置後の 判定区分	応急措置内容	応急措置及び 判定実施年月日
上部構造						
主桁	Ⅲ	腐食	写真001,主桁01			
横桁	Ⅲ	腐食	写真002,横桁01			
床版	Ⅲ	腐食	写真003,床版01			
下部構造	Ⅲ	腐食	写真004,下部工03			
支承部	Ⅲ	腐食	写真005,支承部102			
その他	Ⅲ	腐食	写真006,高欄・防護柵01			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

定期点検時に記録

(判定区分)	(所見等)
Ⅲ	早期措置の観点から、主桁、横桁、床版、下部工、支承部、高欄、地覆の補修を早期に実施する。予防保全の観点から、舗装、添架物の補修を実施することが望ましい。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1963 年	56.17 m	2 m
橋梁形式		
単線単跨梁・単線多跨梁・2線・連続梁・単線・その他(橋台)・置換基礎2基、二層ラーメン・橋脚(鋼製)・置換基礎2基、柱脚部(鋼製)・置換基礎1基		

起点



終点

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度 経度	42° 59' 11.1" 144° 9' 17.79"	橋梁ID
恋問2号橋 (フリガナ)コイトイ2ゴウハシ	庶路三鈴線	北海道白糠郡白糠町庶路甲区				42.98641,144.15494
管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
北海道白糠町	2021.09.22	コイトイ川	有	一般道	その他	水道

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)

定期点検者

道土木・ダイシン・和光・太平洋総合・山下コンサル JV 黒田 秀忠

定期点検時に記録

応急措置後に記録

部材名	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	応急措置後の 判定区分	応急措置内容	応急措置及び 判定実施年月日
上部構造						
主桁	Ⅲ	腐食	写真001,主桁01			
横桁	Ⅲ	腐食	写真002,横桁01			
床版	Ⅰ					
下部構造	Ⅲ	うき・剥離・鉄筋露出	写真004,下部工02			
支承部	Ⅲ	腐食	写真005,支承部101			
その他	Ⅱ	腐食	写真006,高欄・防護柵02			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

定期点検時に記録

(判定区分)	(所見等)
Ⅲ	早期措置の観点から、主桁、横桁、対傾構、横構、下部工、支承部の補修を早期に実施する。予防保全の観点から、伸縮装置、防護柵、地覆、排水装置、舗装、添架物の補修を実施することが望ましい。床版については損傷の進行を確認していくことが望ましい。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1975 年	78.7 m	4 m
橋梁形式		
単純鋼溶接 I桁(合成)橋×3連、逆T式橋台杭基礎2基、壁式橋脚(RC)杭基礎2基		

起点



終点

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	42° 59′ 53.31″	
				経度	144° 11′ 47.79″	
富留川3号橋 (フリガナ)フルカワ3ゴウハシ	釧路空港短絡線	北海道白糠町庶路甲区				
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
北海道白糠町	2017.09.29	富留川	有	一般道	その他	

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)				点検者	道土木・デザイン・和光・太平洋総合特定委託業務共同企業体	点検責任者	和田 隆宏
点検時に記録					措置後に記録		
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合 に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	措置後の 判定区分	変状の種類	措置及び判定 実施年月日
上部構造	主桁	Ⅱ	うき・剥離・鉄筋露出	写真001,主桁01			
	横桁	Ⅱ	うき・剥離・鉄筋露出	写真002,横桁02			
	床版	Ⅰ					
下部構造		Ⅱ	ひびわれ	写真004,下部工01			
支承部		Ⅱ	防食機能の劣化	写真005,支承部101			
その他		Ⅱ	漏水・滞水	写真006,伸縮装置01			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)				措置後に記録	
点検時に記録					
(判定区分)	(所見等)	機能回復対策として上部工の断面補修、下部工のひびわれ補修、防食対策として支承の塗替塗装、漏水対策として伸縮取替を実施することが望ましい。		(再判定区分)	(再判定実施年月日)
Ⅱ					

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員	起点		終点
1978年	29m	7.50m			

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度 経度	42° 59' 51.37"	144° 9' 20.08"
恋問5号橋 (フリガナ)コイトイ5ゴウハシ	富留川1号橋通り	北海道白糠郡白糠町庶路甲区(宮下)				
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
北海道白糠町	2018.10.23	コイトイ川	有	一般道	その他	

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)

点検者				点検責任者		
道土木・デザイン・和光・太平洋総合特定委託業務共同企業体				和田 隆宏		
点検時に記録				措置後に記録		
部材名	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に 記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	措置後の 判定区分	変状の種類	措置及び判定 実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ				
	横桁	Ⅰ				
	床版	Ⅰ				
下部構造	Ⅰ					
支承部	Ⅰ					
その他	Ⅱ	うき・剥離・鉄筋露出	写真006,地覆02			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

点検時に記録		措置後に記録	
(判定区分)	(所見等) 道路橋の機能に支障が生じる損傷は見られないが、必要に応じて 地覆・排水管補修、維持対応による舗装補修が望ましい。	(再判定区分)	(再判定実施年月日)
Ⅰ			

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員	起点		終点
2000年	60m	7.50m			

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	42° 59′ 23.73″	
				経度	144° 9′ 38.52″	
富留川1号橋 (フリガナ)フルカワ1ゴウバシ	富留川1号橋通り	北海道白糠町庶路甲区(宮下)				
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
北海道白糠町	2017.10.16	古川	有	一般道	その他	

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)				点検者	道土木・ダイシン・和光・太平洋総合特定委託業務共同企業体	点検責任者	ダイシン設計(株) 本間 三朝	
点検時に記録				措置後に記録				
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合 に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	措置後の 判定区分	変状の種類	措置及び判定 実施年月日	
上部構造	主桁	Ⅰ						
	横桁							
	床版	Ⅰ						
下部構造		Ⅰ						
支承部		Ⅰ						
その他		Ⅱ	腐食	写真006,排水装置01				

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)				措置後に記録	
点検時に記録				(再判定区分)	(再判定実施年月日)
(判定区分) Ⅰ	(所見等)	構造物の機能に支障が生じる損傷は見られないが、機能回復対策として 排水管の取替を実施することが望ましい。			

全景写真(起点側、終点側を記載すること)		
架設年次	橋長	幅員
1995年	35m	7.50m
起点		
		
終点		

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	42° 59′ 34.81″		
				経度	144° 10′ 25.38″		
富留川2号橋 (フリガナ)フルカワ2ゴウハシ	富留川2号橋通り	北海道白糠町遮路甲区					
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)	
北海道白糠町	2017.09.24	古川	有	一般道	その他		

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)

点検者				点検責任者		
道土木・デザイン・和光・太平洋総合特定委託業務共同企業体				和田 隆宏		
点検時に記録				措置後に記録		
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	措置後の 判定区分	措置及び判定 実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ				
	横桁	Ⅰ				
	床版	Ⅰ				
下部構造		Ⅰ				
支承部		Ⅱ	防食機能の劣化	写真005,支承部201		
その他		Ⅱ	ゆるみ・脱落	写真006,高欄・防護柵01		

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

点検時に記録		措置後に記録	
(判定区分)	(所見等) 防食対策として支承の塗替塗装、機能回復対策として防護柵補修、 Ⅱ 支承モルタル補修を実施することが望ましい。	(再判定区分)	(再判定実施年月日)

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1980年	34m	4.50m

起点



終点

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	42° 59′ 22.36″		
				経度	144° 9′ 22.19″		
恋問4号橋 (フリガナ)コイトイ4ゴウハシ	宮下富留川線	北海道白糠町庶路甲区(宮下)					
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)	
北海道白糠町	2017.09.29	コイトイ川	有	一般道	その他		

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)

点検者				点検責任者		
道土木・デザイン・和光・太平洋総合特定委託業務共同企業体				和田 隆宏		
点検時に記録				措置後に記録		
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合 に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	措置後の 判定区分	措置及び判定 実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ				
	横桁	Ⅰ				
	床版	Ⅰ				
下部構造		Ⅰ				
支承部		Ⅱ	腐食	写真005,支承部101		
その他		Ⅱ	舗装の異常	写真006,舗装01		

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

点検時に記録		措置後に記録	
(判定区分)	(所見等) 防食対策として支承の塗替塗装、機能回復対策として舗装補修、伸縮装置(排水管)の補修を実施することが望ましい。	(再判定区分)	(再判定実施年月日)
Ⅱ			

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員	起点		終点
1984年	68m	4.0m			

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度 経度	42° 59' 1.02" 144° 9' 0.1"	橋梁ID
庶路跨線橋 (フリガナ)シヨロコセンキョウ	庶路跨線橋通り	北海道白糠郡白糠町庶路乙区				42.98361,144.15002
管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
北海道白糠町	2022.01.21	根室本線	有	一般道	その他	

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)

定期点検者

道土木・ダイシン・和光・太平洋総合・山下コンサル JV 黒田 秀忠

定期点検時に記録

応急措置後に記録

部材名	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に 記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	応急措置後の 判定区分	応急措置内容	応急措置及び 判定実施年月日
上部構造						
主桁	Ⅰ					
横桁	Ⅰ					
床版	Ⅰ					
下部構造	Ⅰ					
支承部	Ⅰ					
その他	Ⅰ					

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

定期点検時に記録

(判定区分)	(所見等)
Ⅰ	健全ではあるが、下部工については損傷の進行を確認していくことが望ましい。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1972 年	32.5 m	1.5 m
橋梁形式		
鋼溶接 H 形鋼(非合成)橋×3連、その他(橋台)杭基礎2基、柱橋脚1柱円(鋼製)杭基礎2基		

起点



終点

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	43° 0′ 14.08″		
				経度	144° 12′ 59.71″		
富留川4号橋 (フリガナ)フルカワ4ゴウハシ	富留川4号橋通り	北海道白糠郡白糠町庶路甲区					
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)	
北海道白糠町	2018.09.12	古川	無	一般道	その他		

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)

点検者				点検責任者		
道土木・デザイン・和光・太平洋総合特定委託業務共同企業体				和田 隆宏		
点検時に記録				措置後に記録		
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合 に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	措置後の 判定区分	措置及び判定 実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ				
	横桁					
	床版	Ⅰ				
下部構造		Ⅰ				
支承部		Ⅱ	土砂詰まり	写真005,支承部201		
その他		Ⅱ	路面の凹凸	写真006,舗装01		

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

点検時に記録		措置後に記録	
(判定区分) Ⅱ	(所見等) 支承に土砂詰まり、舗装に75mmのわだち掘れが見られる。維持対応による法面成形、舗装補修を実施することが望ましい。	(再判定区分)	(再判定実施年月日)

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員	起点		終点
2001年	18m	4.0m			

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度 経度	42° 56' 44.93" 144° 0' 24.42"	橋梁ID
古瀬跨線橋 (フリガナ)フルセコセンキョウ	馬主来大秋線	北海道白糠郡白糠町馬主来				42.94581,144.00678
管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
北海道白糠町	2022.01.17	根室本線	有	一般道	その他	

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)

定期点検者

道土木・デザイン・和光・太平洋総合・山下コンサル JV 黒田 秀忠

定期点検時に記録

応急措置後に記録

部材名	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	応急措置後の 判定区分	応急措置内容	応急措置及び 判定実施年月日
上部構造						
主桁	Ⅰ					
横桁	Ⅰ					
床版	Ⅱ	床版ひびわれ	写真003,床版03			
下部構造	Ⅱ	ひびわれ	写真004,下部工02			
支承部	Ⅲ	支承部の機能障害	写真005,支承部103			
その他	Ⅱ	漏水・滞水	写真006,伸縮装置01			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

定期点検時に記録

(判定区分)	(所見等)
Ⅲ	早期措置の観点から、支承部の補修を早期に実施する。予防保全の観点から、床版、下部工、伸縮装置、舗装、袖擁壁の補修を実施することが望ましい。主桁、横桁、防護柵、地覆、排水装置については損傷の進行を確認していくことが望ましい。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1977 年	15.6 m	6.5 m
橋梁形式 鋼溶接 H形鋼(合成)橋、逆T式橋台直接基礎2基		

起点



終点

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度 経度	42° 58' 7.34" 143° 56' 20.17"	橋梁ID
界橋 (フリガナ)サカイバシ	馬主来大秋線	北海道白糠郡白糠町馬主来				42.96870,143.93893
管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
北海道白糠町	2021.09.16	馬主来川	無	一般道	その他	

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)

定期点検者

道土木・ダイシン・和光・太平洋総合・山下コンサル JV 黒田 秀忠

定期点検時に記録

応急措置後に記録

部材名	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に 記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	応急措置後の 判定区分	応急措置内容	応急措置及び 判定実施年月日
上部構造	Ⅱ	うき・剥離・鉄筋露出	写真001,主桁05			
主桁						
横桁						
床版						
下部構造	Ⅲ	洗掘	写真004,下部工02			
支承部						
その他	Ⅱ	舗装の異常	写真006,舗装01			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

定期点検時に記録

(判定区分)	(所見等)
Ⅲ	早期措置の観点から、下部工の洗掘対策を早期に実施する。予防保全の観点から、主桁、舗装の補修を実施することが望ましい。地覆については損傷の進行を確認していくことが望ましい。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1983 年	6 m	5.75 m
橋梁形式		
RC桁橋(その他)、その他(橋台)直接基礎2基		

起点



終点

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度 経度	42° 57' 20.29" 144° 1' 58.99"	橋梁ID
下和天別橋 (フリガナ)シモワテンベツハシ	和天別御園中通り線	北海道白糠郡白糠町和天別				42.95563,144.03305
管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
北海道白糠町	2021.09.30	和天別川	有	一般道	その他	水道

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)

定期点検者

道土木・ダイシン・和光・太平洋総合・山下コンサル JV 黒田 秀忠

定期点検時に記録

応急措置後に記録

部材名	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	応急措置後の 判定区分	応急措置内容	応急措置及び 判定実施年月日
上部構造						
主桁	Ⅱ	ゆるみ・脱落	写真001,主桁01			
横桁	Ⅰ					
床版	Ⅱ	床版ひびわれ	写真003,床版02			
下部構造	Ⅰ					
支承部	Ⅲ	支承部の機能障害	写真005,支承部201			
その他	Ⅱ	漏水・滞水	写真006,伸縮装置02			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

定期点検時に記録

(判定区分)	(所見等)
Ⅲ	早期措置の観点から、支承部の補修を早期に実施する。予防保全の観点から主桁、床版、伸縮装置、地覆、排水装置、舗装、の補修を実施することが望ましい。横桁、対傾構、横構、下部工、防護柵、添架物については損傷の進行を確認していくことが望ましい。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1976 年	62.4 m	6.5 m
橋梁形式		
単純鋼溶接 I桁(合成)橋×2連、逆T式橋台杭基礎2基、壁式橋脚(RC)杭基礎1基		

起点



終点

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度 経度	42° 55' 54.48" 143° 59' 18.03"	橋梁ID
馬主来橋 (フリガナ)バシユクルバシ	白糠音別線	北海道白糠郡白糠町馬主来				42.93180,143.98834
管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
北海道白糠町	2022.01.24	馬主来川	有	一般道	その他	

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)

定期点検者

道土木・ダイシン・和光・太平洋総合・山下コンサル JV 黒田 秀忠

定期点検時に記録

応急措置後に記録

部材名	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合 に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	応急措置後の 判定区分	応急措置内容	応急措置及び 判定実施年月日
上部構造						
主桁	Ⅱ	腐食	写真001,主桁03			
横桁	Ⅰ					
床版	Ⅱ	うき・剥離・鉄筋露出	写真003,床版01			
下部構造	Ⅱ	ひびわれ	写真004,下部工01			
支承部	Ⅲ	支承部の機能障害	写真005,支承部103			
その他	Ⅱ	ゆるみ・脱落	写真006,高欄・防護柵02			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

定期点検時に記録

(判定区分)	(所見等)
Ⅲ	早期措置の観点から、支承部の補修を早期に実施する。予防保全の観点から、主桁、下部工、伸縮装置、防護柵、排水装置の補修を実施することが望ましい。横桁、床版、地覆、舗装については損傷の進行を確認していくことが望ましい。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1964 年	18.5 m	5.5 m
橋梁形式	鋼溶接 H形鋼(合成)橋、逆T式橋台2基	

起点



終点

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	42° 57' 53.79"		
				経度	144° 0' 30.35"		
駒越大橋 (フリガナ)コマゴシオオハシ	中央幹線	北海道白糠町和天別甲区					
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)	
北海道白糠町	2017.09.12	和天別川	有	一般道	その他		

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)

点検者				点検責任者		
太平洋総合コンサルタント(株) 黒澤 直				和田 隆宏		
点検時に記録				措置後に記録		
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合 に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	措置後の 判定区分	措置及び判定 実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ				
	横桁	Ⅰ				
	床版	Ⅱ	うき・剥離・鉄筋露出	写真003,床版03		
下部構造		Ⅱ	ひびわれ	写真004,下部工02		
支承部		Ⅲ	支承部の機能障害	写真005,支承部201		
その他		Ⅱ	ゆるみ・脱落	写真006,高欄・防護柵02		

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

点検時に記録		措置後に記録	
(判定区分)	(所見等) 機能回復対策として沓座モルタル補修を早期に実施する。機能回復対策として床版断面・下部工ひびわれ・防護柵補修を実施することが望ましい。	(再判定区分)	(再判定実施年月日)
Ⅲ			

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1978年	60m	6.50m

起点



終点

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	42° 58′ 56.26″		
				経度	143° 59′ 9.39″		
川向橋 (フリガナ)カワムカイハシ	中央幹線	北海道白糠町和天別西区					
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)	
北海道白糠町	2017.09.14	和天別川	有	一般道	その他		

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)

点検者				点検責任者		
道土木・デザイン・和光・太平洋総合特定委託業務共同企業体				和田 隆宏		
点検時に記録				措置後に記録		
部材名	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合 に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	措置後の 判定区分	変状の種類	措置及び判定 実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ				
	横桁	Ⅰ				
	床版	Ⅱ	床版ひびわれ	写真003,床版03		
下部構造	Ⅰ					
支承部	Ⅰ					
その他	Ⅱ	舗装の異常	写真006,舗装01			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

点検時に記録		措置後に記録	
(判定区分)	(所見等) 機能回復対策として橋面防水、舗装補修、防護柵補修を実施することが望ましい。	(再判定区分)	(再判定実施年月日)
Ⅱ			

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員	起点		終点
1979年	41m	7.0m			

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度 経度	42° 59' 6.59" 143° 59' 19.67"	橋梁ID
河原橋 (フリガナ)カワハラバシ	駒越太平線	北海道白糠郡白糠町和天別西区				42.98516,143.98879
管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
北海道白糠町	2021.10.06	恋隠川	有	一般道	その他	

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)

定期点検者

道土木・ダイシン・和光・太平洋総合・山下コンサル JV 黒田 秀忠

定期点検時に記録

応急措置後に記録

部材名	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合 に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	応急措置後の 判定区分	応急措置内容	応急措置及び 判定実施年月日
上部構造						
主桁	Ⅰ					
横桁	Ⅰ					
床版	Ⅰ					
下部構造	Ⅲ	ひびわれ	写真004,下部工02			
支承部	Ⅱ	ゆるみ・脱落	写真005,支承部102			
その他	Ⅱ	変形・欠損	写真006,高欄・防護柵01			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

定期点検時に記録

(判定区分)	(所見等)
Ⅲ	早期措置の観点から、下部工の補修を早期に実施する。予防保全の観点から、支承部、防護柵、排水装置の補修を実施することが望ましい。主桁、横桁、対傾構、横構、床版、伸縮装置、地覆、については損傷の進行を確認していくことが望ましい。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1970 年	52 m	4.5 m
橋梁形式		
単純鋼溶接1桁(合成)橋×2連、逆T式橋台直接基礎1基、壁式橋脚(RC)杭基礎1基、逆T式橋台杭基礎1基		

起点



終点

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度 経度	43° 0' 52.46'' 143° 58' 18.04''	橋梁ID
恋隠橋 (フリガナ)コイカクシハシ	駒越太平線	北海道白糠郡白糠町恋隠				43.01457,143.97167
管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
北海道白糠町	2021.10.02	恋隠川	有	一般道	その他	水道

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)

定期点検者

道土木・ダイシン・和光・太平洋総合・山下コンサル JV 黒田 秀忠

定期点検時に記録

応急措置後に記録

部材名	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	応急措置後の 判定区分	応急措置内容	応急措置及び 判定実施年月日
上部構造						
主桁	Ⅰ					
横桁	Ⅰ					
床版	Ⅱ	床版ひびわれ	写真003,床版03			
下部構造	Ⅲ	ひびわれ	写真004,下部工02			
支承部	Ⅲ	支承部の機能障害	写真005,支承部104			
その他	Ⅱ	漏水・滞水	写真006,伸縮装置01			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

定期点検時に記録

(判定区分)	(所見等)
Ⅲ	早期措置の観点から、下部工、支承部の補修を早期に実施する。予防保全の観点から、床版、伸縮装置、地覆、舗装の補修を実施することが望ましい。主桁、横桁、横構、防護柵、排水装置、添架物については損傷の進行を確認していくことが望ましい。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1970 年	52 m	6.5 m
橋梁形式		
単純鋼溶接1桁(合成)橋×2連、逆T式橋台直接基礎2基、壁式橋脚(RC)直接基礎1基		

起点



終点

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	43° 1' 15.92"		
				経度	143° 57' 23.19"		
錦橋 (フリガナ)ニシキハシ	駒越太平線	北海道白糠町和天別太平					
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)	
北海道白糠町	2017.09.23	恋隠川	有	一般道	その他		

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)

点検者				点検責任者		
道土木・デザイン・和光・太平洋総合特定委託業務共同企業体				和田 隆宏		
点検時に記録				措置後に記録		
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	措置後の 判定区分	措置及び判定 実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ				
	横桁	Ⅰ				
	床版	Ⅰ				
下部構造		Ⅰ				
支承部		Ⅰ				
その他		Ⅱ	路面の凹凸	写真006,舗装01		

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

点検時に記録		措置後に記録	
(判定区分)	(所見等)	(再判定区分)	(再判定実施年月日)
Ⅰ	構造物の機能に支障が生じる損傷は見られないが、安全対策として路面の段差補修、機能回復対策として伸縮(排水管)補修を実施することが望ましい。		

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1984年	40m	6.50m

起点



終点

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度 経度	42° 57' 48.27" 144° 1' 19.05"	橋梁ID
山崎橋 (フリガナ)ヤマザキハシ	山崎線	北海道白糠郡白糠町和天別228				42.96340,144.02195
管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
北海道白糠町	2021.09.30	和天別川	有	一般道	その他	不明

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)

定期点検者

道土木・デザイン・和光・太平洋総合・山下コンサル JV 黒田 秀忠

定期点検時に記録

応急措置後に記録

部材名	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	応急措置後の 判定区分	応急措置内容	応急措置及び 判定実施年月日
上部構造						
主桁	Ⅰ					
横桁	Ⅰ					
床版	Ⅰ					
下部構造	Ⅲ	ひびわれ	写真004,下部工02			
支承部	Ⅲ	支承部の機能障害	写真005,支承部103			
その他	Ⅱ	腐食	写真006,高欄・防護柵01			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

定期点検時に記録

(判定区分)	(所見等)
Ⅲ	早期措置の観点から、下部工、支承部の補修を早期に実施する。予防保全の観点から、伸縮装置、防護柵、地覆、排水装置、舗装の補修を実施することが望ましい。主桁、横桁、対傾構、床版、添架物については損傷の進行を確認していくことが望ましい。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1974 年	68 m	6 m
橋梁形式		
単純鋼溶接 I 桁(合成)橋×3連、逆T式橋台杭基礎2基、壁式橋脚(RC)杭基礎2基		

起点



終点

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	42° 59′ 41.41″	
				経度	144° 1′ 53.73″	
大苗橋 (フリガナ)オオナエバシ	大苗河原線	北海道白糠町大苗				
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
北海道白糠町	2017.11.10	茶路川	有	一般道	その他	

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)				点検者	道土木・デザイン・和光・太平洋総合特定委託業務共同企業体	点検責任者	和田 隆宏	
点検時に記録				措置後に記録				
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合 に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	措置後の 判定区分	変状の種類		措置及び判定 実施年月日
上部構造	主桁	Ⅱ	亀裂	写真001,アーチリブ・補剛材02				
	横桁	Ⅰ						
	床版	Ⅱ	床版ひびわれ	写真003,床版03				
下部構造		Ⅱ	ひびわれ	写真004,下部工01				
支承部		Ⅱ	ゆるみ・脱落	写真005,支承部103				
その他		Ⅱ	漏水・滞水	写真006,伸縮装置02				

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)					措置後に記録	
点検時に記録						
(判定区分)	(所見等) 機能回復対策として上部工補剛材補修、下部工ひび割れ補修、路面補修、漏水対策として橋面防水、伸縮取替を実施することが望ましい。				(再判定区分)	(再判定実施年月日)
Ⅱ						

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1991年	243m	7.0m

起点



終点

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度 経度	42° 58' 43.16"	143° 59' 30.77"
新起望橋 (フリガナ)シンキボウバシ	大苗河原線	北海道白糠町和天別西区				
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
北海道白糠町	2017.09.13	和天別川	有	一般道	その他	

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)

点検者				点検責任者		
道土木・ダイシン・和光・太平洋総合特定委託業務共同企業体				ダイシン設計(株) 本間 三朝		
点検時に記録				措置後に記録		
部材名	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	措置後の 判定区分	変状の種類	措置及び判定 実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ				
	横桁	Ⅰ				
	床版	Ⅰ				
下部構造	Ⅱ	ひびわれ	写真004,下部工02			
支承部	Ⅰ					
その他	Ⅱ	ゆるみ・脱落	写真006,排水装置01			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

点検時に記録		措置後に記録	
(判定区分)	(所見等) 機能回復対策として下部工ひびわれ補修、排水装置(排水管)補修、舗装補修を実施することが望ましい。	(再判定区分)	(再判定実施年月日)
Ⅱ			

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1996年	56m	7.0m
起点		
		
終点		

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	42° 59′ 47.8″	
				経度	144° 1′ 28.13″	
熊の沢橋 (フリガナ)クマノサワハシ	大苗河原線	北海道白糠町大苗				
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
北海道白糠町	2017.11.09	熊の沢川	有	一般道	その他	

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)				点検者	道土木・デザイン・和光・太平洋総合特定委託業務共同企業体	点検責任者	和田 隆宏
点検時に記録				措置後に記録			
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合 に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	措置後の 判定区分	変状の種類	措置及び判定 実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ					
	横桁						
	床版	Ⅰ					
下部構造		Ⅰ					
支承部		Ⅰ					
その他		Ⅱ	漏水・滞水	写真006,伸縮装置01			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)				措置後に記録	
点検時に記録					
(判定区分)	(所見等)	構造物の機能に支障が生じる損傷は見られないが、伸縮取替、防護柵補修、排水管塗替塗装、路面の段差補修および清掃を実施することが望ましい。		(再判定区分)	(再判定実施年月日)
Ⅰ					

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員			
1993年	8m	7.50m			
起点					終点

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	42° 58′ 54.48″		
				経度	143° 58′ 38.78″		
上シャチホロ橋 (フリガナ)カミシャチホロバシ	和天別川右川沿線	北海道白糠町和天別					
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)	
北海道白糠町	2017.09.19	シャチホロ川	有	一般道	その他		

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)

点検者				点検責任者		
道土木・ダイシン・和光・太平洋総合特定委託業務共同企業体				ダイシン設計(株) 本間 三朝		
点検時に記録				措置後に記録		
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に 記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	措置後の 判定区分	措置及び判定 実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ				
	横桁	Ⅰ				
	床版	Ⅰ				
下部構造		Ⅰ				
支承部		Ⅰ				
その他		Ⅱ	漏水・滞水	写真006,伸縮装置02		

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

点検時に記録		措置後に記録	
(判定区分)	(所見等) 構造物の機能に支障が生じる損傷は見られないが、漏水対策として伸縮取替、機能回復対策として排水管補修を実施することが望ましい。	(再判定区分)	(再判定実施年月日)
Ⅰ			

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員	起点		終点
1988年	25m	6.50m			

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度 経度	42° 59' 22.07" 143° 57' 52.34"	橋梁ID
緑橋 (フリガナ)ミドリバシ	和天別川右川沿線	北海道白糠郡白糠町和天別				42.98946,143.96453
管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
北海道白糠町	2021.10.04	和天別川	有	一般道	その他	水道

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)

定期点検者

道土木・ダイシン・和光・太平洋総合・山下コンサル JV 黒田 秀忠

定期点検時に記録

応急措置後に記録

部材名	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合 に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	応急措置後の 判定区分	応急措置内容	応急措置及び 判定実施年月日
上部構造						
主桁	Ⅰ					
横桁	Ⅰ					
床版	Ⅰ					
下部構造	Ⅲ	ひびわれ	写真004,下部工02			
支承部	Ⅲ	支承部の機能障害	写真005,支承部103			
その他	Ⅱ	路面の凹凸	写真006,舗装01			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

定期点検時に記録

(判定区分)	(所見等)
Ⅲ	早期措置の観点から、下部工、支承部の補修を早期に実施する。予防保全の観点から、伸縮装置、舗装の補修を実施することが望ましい。主桁、横桁、対傾構、床版、伸縮装置、防護柵、地覆については損傷の進行を確認していくことが望ましい。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1970 年	52 m	6.5 m
橋梁形式		
単純鋼溶接1桁(合成)橋×2連、逆T式橋台直接基礎2基、壁式橋脚(RC)直接基礎1基		

起点



終点

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	43° 0′ 26.6″	
				経度	143° 55′ 41.58″	
榆橋 (フリガナ)ニレハシ	和天別13号線	北海道白糠町和天別				
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
北海道白糠町	2017.11.08	和天別川	無	一般道	その他	

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)				点検者	道土木・デザイン・和光・太平洋総合特定委託業務共同企業体	点検責任者	和田 隆宏
点検時に記録				措置後に記録			
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合 に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	措置後の 判定区分	変状の種類	措置及び判定 実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ					
	横桁						
	床版	Ⅱ	漏水・遊離石灰	写真003,床版04			
下部構造		Ⅰ					
支承部		Ⅰ					
その他		Ⅱ	路面の凹凸	写真006,舗装01			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)				措置後に記録	
点検時に記録					
(判定区分)	(所見等)	安全対策として路面の段差補修、漏水対策として橋面防水、伸縮取替、機能回復対策として路面清掃を実施することが望ましい。		(再判定区分)	(再判定実施年月日)
Ⅱ					

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員	起点		終点
1982年	10m	5.0m			

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度 経度	42° 59' 5.94" 143° 58' 36.23"	橋梁ID
緑大橋 (フリガナ)ミドリオオハシ	和天別21号線	北海道白糠郡白糠町和天別				42.98498,143.97673
管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
北海道白糠町	2021.10.02	和天別川	有	一般道	その他	

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)

定期点検者

道土木・ダイシン・和光・太平洋総合・山下コンサル JV 黒田 秀忠

定期点検時に記録

応急措置後に記録

部材名	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合 に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	応急措置後の 判定区分	応急措置内容	応急措置及び 判定実施年月日
上部構造						
主桁	Ⅰ					
横桁	Ⅰ					
床版	Ⅰ					
下部構造	Ⅱ	ひびわれ	写真004,下部工02			
支承部	Ⅲ	支承部の機能障害	写真005,支承部201			
その他	Ⅱ	うき・剥離・鉄筋露出	写真006,地覆01			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

定期点検時に記録

(判定区分)	(所見等)
Ⅲ	早期措置の観点から、支承部の補修を早期に実施する。予防保全の観点から、下部工、伸縮装置、防護柵、地覆の補修を実施することが望ましい。主桁、横桁、対傾構、横構、排水装置、舗装については損傷の進行を確認していくことが望ましい。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1971 年	52 m	4.5 m
橋梁形式		
単純鋼溶接1桁(合成)橋×2連、逆T式橋台直接基礎2基、壁式橋脚(RC)直接基礎1基		

起点



終点

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	42° 59' 11.46"		
				経度	143° 56' 58.44"		
シャチホ口3号橋 (フリガナ)シャチホ口3ゴウハシ	シャチホ口線	北海道白糠郡白糠町和天別					
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)	
北海道白糠町	2018.09.19	シャチホ口川	有	一般道	その他		

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)

点検者				点検責任者		
道土木・ダイシン・和光・太平洋総合特定委託業務共同企業体				和田 隆宏		
点検時に記録				措置後に記録		
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	措置後の 判定区分	措置及び判定 実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ				
	横桁					
	床版	Ⅰ				
下部構造		Ⅰ				
支承部		Ⅰ				
その他		Ⅰ				

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

点検時に記録		措置後に記録	
(判定区分)	(所見等)	(再判定区分)	(再判定実施年月日)
Ⅰ	軽微な損傷が見られるが、道路橋の機能に支障が生じる損傷は見られないため経過観察とする。		

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
2000年	14m	6.0m
起点		
		
終点		

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	43° 0′ 2.59″		
				経度	143° 59′ 3.52″		
加茂橋 (フリガナ)カモハシ	大沢21号線	北海道白糠町和天別					
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)	
北海道白糠町	2017.09.24	恋隠川	無	一般道	その他		

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)

点検者				点検責任者		
道土木・デザイン・和光・太平洋総合特定委託業務共同企業体				和田 隆宏		
点検時に記録				措置後に記録		
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合 に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	措置後の 判定区分	措置及び判定 実施年月日
上部構造	主桁	Ⅲ	ゆるみ・脱落	写真001,主桁02		
	横桁	Ⅰ				
	床版	Ⅰ				
下部構造		Ⅲ	ひびわれ	写真004,下部工02		
支承部		Ⅱ	支承部の機能障害	写真005,支承部201		
その他		Ⅱ	漏水・滞水	写真006,伸縮装置02		

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

点検時に記録		措置後に記録	
(判定区分)	(所見等) 機能回復対策として上部工補修、下部工ひび割れ補修を早期に実施する。伸縮取替、沓座モルタル補修を実施することが望ましい。	(再判定区分)	(再判定実施年月日)
Ⅲ			

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1976年	35m	4.0m

起点



終点

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度 経度	42° 59' 48.29" 143° 57' 27.65"	橋梁ID
川島橋 (フリガナ)カワシマハシ	川島シャチホロ線	北海道白糠町和天別				42.99674,143.95768
管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
北海道白糠町	2021.11.10	和天別川	有	一般道	その他	

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)

定期点検者

道土木・ダイシン・和光・太平洋総合・山下コンサル JV 黒田 秀忠

定期点検時に記録

応急措置後に記録

部材名	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合 に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	応急措置後の 判定区分	応急措置内容	応急措置及び 判定実施年月日
上部構造						
主桁	Ⅰ					
横桁	Ⅰ					
床版	Ⅰ					
下部構造	Ⅰ					
支承部	Ⅰ					
その他	Ⅰ					

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

定期点検時に記録

(判定区分)	(所見等)
Ⅰ	健全ではあるが、下部工、伸縮装置、防護柵、地覆、舗装については損傷の進行を確認していくことが望ましい。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1979 年	35.8 m	5.5 m
橋梁形式		
単純鋼溶接 H形鋼(合成)橋×2連、逆T式橋台直接基礎2基、壁式橋脚(RC)直接基礎1基		

起点



終点

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	42° 59′ 12.4″	
				経度	144° 3′ 37.11″	
茶路6号線1号橋 (フリガナ)チャロ6ゴウセン1ゴウハシ	茶路6号線	北海道白糠町茶路基線				
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
北海道白糠町	2017.10.17	1号川	無	一般道	その他	

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)				点検者	道土木・デザイン・和光・太平洋総合特定委託業務共同企業体	点検責任者	和田 隆宏
点検時に記録				措置後に記録			
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合 に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	措置後の 判定区分	変状の種類	措置及び判定 実施年月日
上部構造	主桁	Ⅱ	うき・剥離・鉄筋露出	写真001,主桁03			
	横桁						
	床版	Ⅰ					
下部構造		Ⅰ					
支承部		Ⅱ	土砂詰まり	写真005,支承部101			
その他		Ⅱ	土砂詰まり	写真006,舗装01			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)				措置後に記録	
点検時に記録					
(判定区分)	(所見等) 機能回復対策として上部工・地覆・防護柵断面補修、 沓座および路面清掃を実施することが望ましい。			(再判定区分)	(再判定実施年月日)
Ⅱ					

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員			
1979年	10m	5.0m			
			起点		終点

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度 経度	43° 0' 59.56" 144° 1' 34.92"	橋梁ID
茶路橋 (フリガナ)チャロハシ	茶路原野15号線	北海道白糠郡白糠町茶路				43.01654,144.02636
管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
北海道白糠町	2021.12.09	茶路川	有	一般道	その他	

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)

定期点検者

道土木・ダイシン・和光・太平洋総合・山下コンサル JV 黒田 秀忠

定期点検時に記録

応急措置後に記録

部材名	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合 に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	応急措置後の 判定区分	応急措置内容	応急措置及び 判定実施年月日
上部構造						
主桁	Ⅰ					
横桁	Ⅰ					
床版	Ⅰ					
下部構造	Ⅰ					
支承部	Ⅰ					
その他	Ⅱ	腐食	写真006,排水装置01			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

定期点検時に記録

(判定区分)	(所見等)
Ⅰ	健全ではあるが、予防保全の観点から、排水装置の補修を実施することが望ましい。その他、主桁、横桁、床版、下部工については損傷の進行を確認していくことが望ましい。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1971 年	203.7 m	5.5 m
橋梁形式		
鉄筋コンクリート(合成)橋・4連、架設橋脚(Ⅰ)・杭基礎1基、流下式開放式橋脚1基、流下式開放式橋脚1基、架設橋脚(Ⅰ)・管柱基礎2基、架設橋脚(Ⅰ)・管柱基礎2基、架設橋脚(Ⅰ)・管柱基礎2基		

起点



終点

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	43° 3′ 46.35″		
				経度	144° 1′ 15.15″		
川西幹線1号橋 (フリガナ)カワニシカンセン1ゴウハシ	川西幹線	北海道白糠町川西					
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)	
北海道白糠町	2017.11.09	無名川	有	一般道	その他		

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)

点検者				点検責任者		
道土木・デザイン・和光・太平洋総合特定委託業務共同企業体				和田 隆宏		
点検時に記録				措置後に記録		
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	措置後の 判定区分	措置及び判定 実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ				
	横桁					
	床版	Ⅱ	漏水・遊離石灰	写真003,床版01		
下部構造		Ⅰ				
支承部		Ⅰ				
その他		Ⅱ	ゆるみ・脱落	写真006,高欄・防護柵02		

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

点検時に記録		措置後に記録	
(判定区分)	(所見等)	(再判定区分)	(再判定実施年月日)
Ⅱ	漏水対策として橋面防水、機能回復対策として防護柵補修、路面清掃、防食対策として排水管塗替塗装、を実施することが望ましい。		

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員	起点		終点
1986年	13m	4.0m			

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度 経度	43° 0' 16.64" 144° 1' 13.76"	橋梁ID
フレイベツ橋 (フリガナ)フレイベツバシ	川西幹線	北海道白糠郡白糠町川西				43.00462,144.02048
管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
北海道白糠町	2021.09.08	フレイベツ川	有	一般道	その他	

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)

定期点検者

道土木・ダイシン・和光・太平洋総合・山下コンサル JV 黒田 秀忠

定期点検時に記録

応急措置後に記録

部材名	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	応急措置後の 判定区分	応急措置内容	応急措置及び 判定実施年月日
上部構造						
主桁	Ⅰ					
横桁						
床版	Ⅱ	漏水・遊離石灰	写真003,床版01			
下部構造	Ⅱ	うき・剥離・鉄筋露出	写真004,下部工02			
支承部	Ⅰ					
その他	Ⅰ					

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

定期点検時に記録

(判定区分)	(所見等)
Ⅱ	予防保全の観点から、床版、下部工の補修を実施することが望ましい。その他、支承部、防護柵、地覆、排水装置、舗装、袖擁壁については損傷の進行を確認していくことが望ましい。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1976 年	8.5 m	4 m
橋梁形式		
PC桁橋(その他)、逆T式橋台2基		

起点



終点

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	43° 2′ 22.97″	
				経度	144° 0′ 12.15″	
御仁田橋 (フリガナ)オニタハシ	川西幹線	北海道白糠町御仁田				
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
北海道白糠町	2017.11.07	トンケシ川	有	一般道	その他	

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)				点検者	道土木・デザイン・和光・太平洋総合特定委託業務共同企業体	点検責任者	和田 隆宏
点検時に記録				措置後に記録			
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合 に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	措置後の 判定区分	変状の種類	措置及び判定 実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ					
	横桁						
	床版	Ⅱ	漏水・遊離石灰	写真003,床版02			
下部構造		Ⅱ	ひびわれ	写真004,下部工02			
支承部		Ⅰ					
その他		Ⅱ	腐食	写真006,排水装置01			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)				措置後に記録	
点検時に記録				(再判定区分)	(再判定実施年月日)
(判定区分) Ⅱ	(所見等)	漏水対策として橋面防水、機能回復対策として下部工ひびわれ補修、 防食対策として排水管の塗替塗装を実施することが望ましい。			

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1991年	18m	7.50m

起点



終点

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度 経度	43° 2' 44.1"	143° 59' 45.83"
望郷橋 (フリガナ)ボウキョウバシ	川西幹線	北海道白糠町御仁田				
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
北海道白糠町	2017.11.07	ペナアンオニタウンペツ川	無	一般道	その他	

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)

点検者				点検責任者		
道土木・デザイン・和光・太平洋総合特定委託業務共同企業体				和田 隆宏		
点検時に記録				措置後に記録		
部材名	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に 記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	措置後の 判定区分	変状の種類	措置及び判定 実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ				
	横桁					
	床版	Ⅰ				
下部構造	Ⅰ					
支承部	Ⅰ					
その他	Ⅱ	漏水・遊離石灰	写真006,地覆01			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

点検時に記録		措置後に記録	
(判定区分)	(所見等)	(再判定区分)	(再判定実施年月日)
Ⅰ	構造物の機能に支障が生じる損傷は見られないが、機能回復対策として地覆の断面補修、防食対策として排水管の塗替塗装を実施することが望ましい。		

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1996年	19m	6.0m

起点



終点

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度 経度	43° 0' 35.52" 144° 1' 13.82"	橋梁ID
川西14号線1号橋 (フリガナ)カワニシ14ゴウセン1ゴウバシ	川西右支線	北海道白糠郡白糠町川西				43.00986,144.02050
管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
北海道白糠町	2021.09.08	フレイベツ川	無	一般道	その他	

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)

定期点検者

道土木・ダイシン・和光・太平洋総合・山下コンサル JV 黒田 秀忠

定期点検時に記録

応急措置後に記録

部材名	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合 に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	応急措置後の 判定区分	応急措置内容	応急措置及び 判定実施年月日
上部構造						
主桁	Ⅰ					
横桁	Ⅰ					
床版	Ⅱ	うき・剥離・鉄筋露出	写真003,床版02			
下部構造	Ⅰ					
支承部	Ⅰ					
その他	Ⅱ	土砂詰まり	写真006,舗装01			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

定期点検時に記録

(判定区分)	(所見等)
Ⅱ	予防保全の観点から、床版の補修を実施することが望ましい。舗装については橋面清掃を実施することが望ましい。その他、主桁、横桁、下部工、支承部、地覆、排水装置、舗装については損傷の進行を確認していくことが望ましい。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1976 年	6 m	4 m
橋梁形式		
鋼溶接 H形鋼(非合成)橋、その他(橋台)杭基礎2基		

起点



終点

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度 経度	43° 2' 22.15" 144° 0' 17.05"	橋梁ID
協和橋 (フリガナ)キョウワバシ	上川西右線	北海道白糠郡白糠町中茶路				43.03948,144.00473
管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
北海道白糠町	2021.09.29	茶路川	無	一般道	その他	水道

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)

定期点検者

道土木・ダイシン・和光・太平洋総合・山下コンサル JV 黒田 秀忠

定期点検時に記録

応急措置後に記録

部材名	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合 に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	応急措置後の 判定区分	応急措置内容	応急措置及び 判定実施年月日
上部構造						
主桁	Ⅲ	うき・剥離・鉄筋露出	写真001,主桁03			
横桁	Ⅱ	うき・剥離・鉄筋露出	写真002,横桁03			
床版	Ⅰ					
下部構造	Ⅱ	漏水・遊離石灰	写真004,下部工01			
支承部	Ⅰ					
その他	Ⅱ	漏水・滞水	写真006,伸縮装置01			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

定期点検時に記録

(判定区分)	(所見等)
Ⅲ	早期措置の観点から、主桁の補修を早期に実施する。予防保全の観点から、横桁、下部工、伸縮装置、防護柵、排水装置、舗装の補修を実施することが望ましい。床版、支承部、地覆、地覆、添架物については損傷の進行を確認していくことが望ましい。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1974 年	180 m	6 m
橋梁形式		
単純ポステンT桁(合成)橋×7連、逆T式橋台杭基礎2基、壁式橋脚(RC)杭基礎6基		

起点



終点

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度 経度	43° 2' 20.98" 143° 59' 58.07"	橋梁ID
中野橋 (フリガナ)ナカノバシ	上川西右線	北海道白糠郡白糠町御仁田				43.03916,143.99946
管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
北海道白糠町	2021.09.09	トンケシ川	無	一般道	その他	

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)

定期点検者

道土木・ダイシン・和光・太平洋総合・山下コンサル JV 黒田 秀忠

定期点検時に記録

応急措置後に記録

部材名	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	応急措置後の 判定区分	応急措置内容	応急措置及び 判定実施年月日
上部構造						
主桁	Ⅰ					
横桁	Ⅰ					
床版	Ⅰ					
下部構造	Ⅰ					
支承部	Ⅰ					
その他	Ⅱ	路面の凹凸	写真006,舗装01			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

定期点検時に記録

(判定区分)	(所見等)
Ⅰ	健全ではあるが、予防保全の観点から舗装の補修を実施することが望ましい。その他、主桁、横桁、下部工、支承部、地覆、排水装置については損傷の進行を確認していくことが望ましい。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1974 年	6.5 m	4 m
橋梁形式		
鋼溶接 H形鋼(非合成)橋、その他(橋台)杭基礎2基		

起点



終点

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	43° 1′ 58.44″	
				経度	143° 58′ 35.75″	
水野橋 (フリガナ)ミズノハシ	御仁田恋隠線	北海道白糠郡白糠町茶路西3線				
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
北海道白糠町	2018.09.12	トンケシ川	有	一般道	その他	

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)				点検者	道土木・デザイン・和光・太平洋総合特定委託業務共同企業体	点検責任者	和田 隆宏
点検時に記録				措置後に記録			
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合 に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	措置後の 判定区分	変状の種類	措置及び判定 実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ					
	横桁						
	床版	Ⅰ					
下部構造		Ⅰ					
支承部		Ⅰ					
その他		Ⅱ	防食機能の劣化	写真006,排水装置01			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)				措置後に記録	
点検時に記録					
(判定区分)	(所見等) 道路橋の機能に支障が生じる損傷は見られないが、必要に応じて			(再判定区分)	(再判定実施年月日)
Ⅰ	排水管の塗替え塗装が望ましい。				

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1998年	11m	7.50m

起点



終点

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度 経度	43° 2' 38.76" 143° 59' 22.11"	橋梁ID
河合橋 (フリガナ)カワイバシ	西御仁田線	北海道白糠郡白糠町茶路西3線				
管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
北海道白糠町	2021.09.10	トンヤ川	無	一般道	その他	

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)

定期点検者

道土木・ダイシン・和光・太平洋総合・山下コンサル JV 黒田 秀忠

定期点検時に記録

応急措置後に記録

部材名	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合 に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	応急措置後の 判定区分	応急措置内容	応急措置及び 判定実施年月日
上部構造						
主桁	Ⅰ					
横桁						
床版	Ⅰ					
下部構造	Ⅰ					
支承部	Ⅰ					
その他	Ⅱ	漏水・滞水	写真006,伸縮装置02			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

定期点検時に記録

(判定区分)	(所見等)
Ⅰ	健全ではあるが、予防保全の観点から伸縮装置の補修を実施することが望ましい。床版、下部工、支承部、地覆、排水装置については損傷の進行を確認していくことが望ましい。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1982 年	10.45 m	4 m
橋梁形式		
PC桁橋(その他)、重力式橋台直接基礎2基		

起点



終点

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度 経度	43° 5' 24" 143° 58' 42.57"	橋梁ID
新縫別橋 (フリガナ)シンヌイベツバシ	縫別川沿線	北海道白糠郡白糠町縫別				43.08999,143.97849
管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
北海道白糠町	2021.11.11	縫別川	無	一般道	その他	水道

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)

定期点検者

道土木・ダイシン・和光・太平洋総合・山下コンサル JV 黒田 秀忠

定期点検時に記録

応急措置後に記録

部材名	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に 記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	応急措置後の 判定区分	応急措置内容	応急措置及び 判定実施年月日
上部構造						
主桁	Ⅱ	うき・剥離・鉄筋露出	写真001,主桁01			
横桁						
床版	Ⅱ	漏水・遊離石灰	写真003,床版05			
下部構造	Ⅱ	洗掘	写真004,下部工01			
支承部	Ⅰ					
その他	Ⅱ	漏水・滞水	写真006,伸縮装置01			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

定期点検時に記録

(判定区分)	(所見等)
Ⅱ	予防保全の観点から、主桁、床版、下部工、伸縮装置、地覆、舗装の補修を実施することが望ましい。その他、支承部、防護柵、排水装置、添架物、袖擁壁については損傷の進行を確認していくことが望ましい。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1963 年	34.2 m	4 m
橋梁形式		
単純PC桁橋(その他)×3連、重力式橋台直接基礎2基、壁式橋脚(RC)直接基礎2基		

起点



終点

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度 経度	43° 5' 30.16" 143° 58' 39.94"	橋梁ID
願い橋 (フリガナ)ネガイバシ	縫別川沿線	北海道白糠郡白糠町縫別				43.09171,143.97776
管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
北海道白糠町	2021.11.11	縫別川	無	一般道	その他	水道

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)

定期点検者

道土木・ダイシン・和光・太平洋総合・山下コンサル JV 黒田 秀忠

定期点検時に記録

応急措置後に記録

部材名	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合 に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	応急措置後の 判定区分	応急措置内容	応急措置及び 判定実施年月日
上部構造						
主桁	Ⅰ					
横桁	Ⅰ					
床版	Ⅰ					
下部構造	Ⅱ	ひびわれ	写真004,下部工02			
支承部	Ⅲ	破断	写真005,支承部101			
その他	Ⅱ	漏水・滞水	写真006,伸縮装置02			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

定期点検時に記録

(判定区分)	(所見等)
Ⅲ	早期措置の観点から、支承部の補修を早期に実施する。予防保全の観点から、下部工、伸縮装置、伸縮装置、防護柵、舗装の補修を実施することが望ましい。主桁、横桁、床版、地覆、排水装置については損傷の進行を確認していくことが望ましい。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1974 年	41 m	4 m
橋梁形式		
単純鋼溶接 H形鋼(合成)橋×2連、重力式橋台直接基礎2基、壁式橋脚(RC)直接基礎1基		

起点



終点

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度 経度	43° 5' 35.94" 143° 58' 38.48"	橋梁ID
開栄橋 (フリガナ)カイエイバシ	縫別川沿線	北海道白糠郡白糠町縫別				43.09331,143.97735
管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
北海道白糠町	2021.10.09	縫別川	無	一般道	その他	水道

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)

定期点検者

道土木・ダイシン・和光・太平洋総合・山下コンサル JV 黒田 秀忠

定期点検時に記録

応急措置後に記録

部材名	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	応急措置後の 判定区分	応急措置内容	応急措置及び 判定実施年月日
上部構造						
主桁	Ⅰ					
横桁	Ⅱ	腐食	写真002,横桁01			
床版	Ⅰ					
下部構造	Ⅲ	ひびわれ	写真004,下部工02			
支承部	Ⅲ	ゆるみ・脱落	写真005,支承部102			
その他	Ⅱ	漏水・滞水	写真006,伸縮装置01			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

定期点検時に記録

(判定区分)	(所見等)
Ⅲ	早期措置の観点から、下部工、支承部の補修を早期に実施する。予防保全の観点から、横桁、伸縮装置、防護柵の補修を実施することが望ましい。主桁、床版、地覆、排水装置、舗装、添架物については損傷の進行を確認していくことが望ましい。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1973 年	51 m	4 m
橋梁形式		
単純鋼溶接 H形鋼(合成)橋×2連、重力式橋台直接基礎2基、壁式橋脚(RC)直接基礎1基		

起点



終点

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度 経度	43° 5' 44.87" 143° 58' 35.1"	橋梁ID
紅映橋 (フリガナ)コウエイバシ	縫別川沿線	北海道白糠郡白糠町縫別				
管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
北海道白糠町	2021.10.09	縫別川	無	一般道	その他	水道

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)

定期点検者

道土木・デザイン・和光・太平洋総合・山下コンサル JV 黒田 秀忠

定期点検時に記録

応急措置後に記録

部材名	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	応急措置後の 判定区分	応急措置内容	応急措置及び 判定実施年月日
上部構造						
主桁	Ⅰ					
横桁	Ⅰ					
床版	Ⅰ					
下部構造	Ⅰ					
支承部	Ⅱ	支承部の機能障害	写真005,支承部101			
その他	Ⅱ	亀裂	写真006,高欄・防護柵01			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

定期点検時に記録

(判定区分)	(所見等)
Ⅱ	予防保全の観点から、支承部、防護柵、排水装置の補修を実施することが望ましい。伸縮装置については清掃を実施することが望ましい。その他、主桁、横桁、下部工、地覆については損傷の進行を確認していくことが望ましい。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1974 年	12.5 m	4 m
橋梁形式 鋼溶接 H形鋼(合成)橋、逆T式橋台直接基礎2基		

起点



終点

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度 経度	43° 6' 49.92" 143° 58' 12.67"	橋梁ID
開成橋 (フリガナ)カイセイバシ	縫別川沿線	北海道白糠郡白糠町縫別				43.11386,143.97018
管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
北海道白糠町	2021.10.09	縫別川	無	一般道	その他	水道

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)

定期点検者

道土木・ダイシン・和光・太平洋総合・山下コンサル JV 黒田 秀忠

定期点検時に記録

応急措置後に記録

部材名	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合 に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	応急措置後の 判定区分	応急措置内容	応急措置及び 判定実施年月日
上部構造						
主桁	Ⅰ					
横桁	Ⅰ					
床版	Ⅰ					
下部構造	Ⅱ	ひびわれ	写真004,下部工02			
支承部	Ⅰ					
その他	Ⅱ	ゆるみ・脱落	写真006,高欄・防護柵01			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

定期点検時に記録

(判定区分)	(所見等)
Ⅱ	予防保全の観点から、下部工、防護柵の補修を実施することが望ましい。その他、主桁、横桁、床版、支承部、伸縮装置、地覆、排水装置、舗装、添架物、袖擁壁については損傷の進行を確認していくことが望ましい。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1968 年	31 m	4 m
橋梁形式		
単純鋼溶接 H形鋼(合成)橋×2連、重力式橋台直接基礎2基、壁式橋脚(RC)直接基礎1基		

起点



終点

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	43° 6′ 41.76″		
				経度	143° 58′ 23.52″		
開明橋 (フリガナ)カイメイバシ	縫別川沿線	北海道白糠郡白糠町縫別					
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)	
北海道白糠町	2018.09.15	縫別川	無	一般道	その他		

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)

点検者				点検責任者		
道土木・デザイン・和光・太平洋総合特定委託業務共同企業体				和田 隆宏		
点検時に記録				措置後に記録		
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に 記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	措置後の 判定区分	措置及び判定 実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ				
	横桁	Ⅰ				
	床版	Ⅰ				
下部構造		Ⅰ				
支承部		Ⅰ				
その他		Ⅰ				

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

点検時に記録		措置後に記録	
(判定区分)	(所見等)	(再判定区分)	(再判定実施年月日)
Ⅰ	2014年に架換。地覆、防護柵に軽微な損傷が見られるが、道路橋の機能に支障が生じる損傷は見られないため経過観察とする。		

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員	起点		終点
2014年	32m	4.0m			

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	43° 6′ 41.2″	
				経度	143° 57′ 53.3″	
新縫奥橋 (フリガナ)シンヌイオクバシ	縫別川沿線	北海道白糠郡白糠町縫別				
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
北海道白糠町	2018.11.07	縫別川	無	一般道	その他	

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)				点検者	道土木・ダイシン・和光・太平洋総合特定委託業務共同企業体	点検責任者	和田 隆宏
点検時に記録				措置後に記録			
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合 に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	措置後の 判定区分	変状の種類	措置及び判定 実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ					
	横桁	Ⅰ					
	床版	Ⅰ					
下部構造		Ⅲ	変形・欠損	写真004,下部工02			
支承部		Ⅲ	破断	写真005,支承部102			
その他		Ⅱ	土砂詰まり	写真006,伸縮装置02			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)				措置後に記録	
点検時に記録					
(判定区分)	(所見等)			(再判定区分)	(再判定実施年月日)
Ⅲ	橋台胸壁に著しい欠損、支承のピンチプレート、ストッパーに破断、基礎に洗掘が見られる。下部工・支承補修及び洗掘対策を早期に実施する。				

全景写真(起点側、終点側を記載すること)		
架設年次	橋長	幅員
1968年	26m	4.0m
起点		
		
終点		

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度 経度	43° 6' 55.7" 143° 57' 11.7"	橋梁ID
直次郎橋 (フリガナ)ナオジロウバシ	縫別川沿線	北海道白糠郡白糠町縫別				43.11547,143.95325
管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
北海道白糠町	2021.10.06	縫別川	無	一般道	その他	水道

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)

定期点検者

道土木・デザイン・和光・太平洋総合・山下コンサル JV 黒田 秀忠

定期点検時に記録

応急措置後に記録

部材名	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合 に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	応急措置後の 判定区分	応急措置内容	応急措置及び 判定実施年月日
上部構造						
主桁	Ⅰ					
横桁	Ⅰ					
床版	Ⅰ					
下部構造	Ⅱ	ひびわれ	写真004,下部工01			
支承部	Ⅱ	支承部の機能障害	写真005,支承部202			
その他	Ⅱ	漏水・滞水	写真006,伸縮装置01			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

定期点検時に記録

(判定区分)	(所見等)
Ⅱ	予防保全の観点から、下部工、支承部、伸縮装置、防護柵、排水装置、舗装の補修を実施することが望ましい。その他、主桁、横桁、床版、添架物、袖擁壁については損傷の進行を確認していくことが望ましい。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1970 年	21 m	4 m
橋梁形式		
鋼溶接 H形鋼(合成)橋、重力式橋台直接基礎2基		

起点



終点

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	43° 12′ 50.27″		
				経度	143° 53′ 3.21″		
白金橋 (フリガナ)シロガネバシ	右股線	北海道白糠郡白糠町右股					
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)	
北海道白糠町	2018.09.27	チクベンニナイ川	無	一般道	その他		

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)

点検者				点検責任者		
道土木・デザイン・和光・太平洋総合特定委託業務共同企業体				和田 隆宏		
点検時に記録				措置後に記録		
部材名	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	措置後の 判定区分	変状の種類	措置及び判定 実施年月日
上部構造	主桁	Ⅱ	漏水・遊離石灰	写真001,主桁13		
	横桁					
	床版	Ⅱ	漏水・遊離石灰	写真003,床版01		
下部構造	Ⅲ	うき・剥離・鉄筋露出	写真004,下部工02			
支承部	Ⅰ					
その他	Ⅱ	漏水・滞水	写真006,伸縮装置01			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

点検時に記録		措置後に記録	
(判定区分) Ⅲ	(所見等) 橋脚の鉄筋露出を伴う剥離が進行し土砂化しているため、補修を早期に実施する。橋面防水、伸縮取替、路面清掃の実施が望ましい。	(再判定区分)	(再判定実施年月日)

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員	起点		終点
1961年	34m	4.0m			

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	43° 8′ 46.73″	
				経度	143° 53′ 16.47″	
北進橋 (フリガナ)ホクシンハシ	二股川向線	北海道白糠町二股				
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
北海道白糠町	2017.10.17	茶路川	無	一般道	その他	

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)				点検者	道土木・デザイン・和光・太平洋総合特定委託業務共同企業体	点検責任者	和田 隆宏
点検時に記録				措置後に記録			
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合 に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	措置後の 判定区分	変状の種類	措置及び判定 実施年月日
上部構造	主桁	Ⅱ	変形・欠損	写真001,主桁01			
	横桁	Ⅰ					
	床版	Ⅱ	床版ひびわれ	写真003,床版02			
下部構造		Ⅱ	ひびわれ	写真004,下部工02			
支承部		Ⅱ	支承部の機能障害	写真005,支承部102			
その他		Ⅱ	うき・剥離・鉄筋露出	写真006,地覆02			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)				措置後に記録	
点検時に記録					
(判定区分)	(所見等)	機能回復対策として主桁補修、下部工断面補修、橋面防水、 沓座モルタル・地覆・、防護柵補修を実施することが望ましい。		(再判定区分)	(再判定実施年月日)
Ⅱ					

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1976年	100m	4.0m

起点



終点

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度 経度	43° 11' 4.06" 143° 51' 14.42"	橋梁ID
琢橋 (フリガナ)ミガキバシ	左股線	北海道白糠郡白糠町左股				43.18446,143.85400
管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
北海道白糠町	2021.11.03	ルークシュチャロ川	無	一般道	その他	

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)

定期点検者

道土木・ダイシン・和光・太平洋総合・山下コンサル JV 黒田 秀忠

定期点検時に記録

応急措置後に記録

部材名	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	応急措置後の 判定区分	応急措置内容	応急措置及び 判定実施年月日
上部構造						
主桁	Ⅰ					
横桁	Ⅰ					
床版	Ⅰ					
下部構造	Ⅰ					
支承部	Ⅲ	支承部の機能障害	写真005,支承部101			
その他	Ⅱ	遊間の異常	写真006,伸縮装置02			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

定期点検時に記録

(判定区分)	(所見等)
Ⅲ	早期措置の観点から、支承部の補修を早期に実施する。予防保全の観点から、伸縮装置、防護柵の補修を実施することが望ましい。主桁、横桁、床版、下部工、排水装置については損傷の進行を確認していくことが望ましい。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1970 年	20.5 m	4 m
橋梁形式 鋼溶接 H形鋼(合成)橋、重力式橋台直接基礎2基		

起点



終点

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度 経度	43° 11' 15.75" 143° 50' 59.25"	橋梁ID
大信橋 (フリガナ)ダイシンバシ	左股線	北海道白糠郡白糠町左股				43.18770,143.84979
管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
北海道白糠町	2021.11.03	ルークシュチャロ川	無	一般道	その他	

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)

定期点検者

道土木・ダイシン・和光・太平洋総合・山下コンサル JV 黒田 秀忠

定期点検時に記録

応急措置後に記録

部材名	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	応急措置後の 判定区分	応急措置内容	応急措置及び 判定実施年月日
上部構造						
主桁	Ⅰ					
横桁	Ⅰ					
床版	Ⅰ					
下部構造	Ⅱ	洗掘	写真004,下部工01			
支承部	Ⅱ	ゆるみ・脱落	写真005,支承部102			
その他	Ⅱ	漏水・滞水	写真006,伸縮装置01			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

定期点検時に記録

(判定区分)	(所見等)
Ⅱ	予防保全の観点から、支承部、伸縮装置、高欄、防護柵の補修を実施することが望ましい。A1橋台については、洗掘対策を実施することが望ましい。その他、主桁、横桁、床版、排水装置、舗装については損傷の進行を確認していくことが望ましい。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1971 年	20.5 m	4 m
橋梁形式		
鋼溶接 H形鋼(合成)橋、重力式橋台直接基礎2基		

起点



終点

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度 経度	43° 11' 51.61" 143° 51' 9.5"	橋梁ID
初葺橋 (フリガナ)ハツタケバシ	左股線	北海道白糠郡白糠町左股				43.19766,143.85263
管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
北海道白糠町	2021.10.04	ルークシュチャロ川	無	一般道	その他	

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)

定期点検者

道土木・ダイシン・和光・太平洋総合・山下コンサル JV 黒田 秀忠

定期点検時に記録

応急措置後に記録

部材名	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合 に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	応急措置後の 判定区分	応急措置内容	応急措置及び 判定実施年月日
上部構造						
主桁	Ⅰ					
横桁	Ⅰ					
床版	Ⅰ					
下部構造	Ⅰ					
支承部	Ⅰ					
その他	Ⅱ	ゆるみ・脱落	写真006,高欄・防護柵01			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

定期点検時に記録

(判定区分)	(所見等)
Ⅰ	健全ではあるが、予防保全の観点から防護柵の補修を実施することが望ましい。主桁、横桁、床版、支承部、地覆、排水装置については損傷の進行を確認していくことが望ましい。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1972 年	10.5 m	4 m
橋梁形式		
鋼溶接 H 形鋼(非合成)橋、その他(橋台)直接基礎2基		

起点



終点

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度 経度	43° 12' 38.32" 143° 51' 6.12"	橋梁ID
愛鳥橋 (フリガナ)アイチョウバシ	左股線	北海道白糠郡白糠町左股				43.21064,143.85170
管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
北海道白糠町	2021.10.04	ルークシュチャロ川	無	一般道	その他	

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)

定期点検者

道土木・ダイシン・和光・太平洋総合・山下コンサル JV 黒田 秀忠

定期点検時に記録

応急措置後に記録

部材名	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	応急措置後の 判定区分	応急措置内容	応急措置及び 判定実施年月日
上部構造						
主桁	Ⅰ					
横桁	Ⅰ					
床版	Ⅰ					
下部構造	Ⅰ					
支承部	Ⅱ	支承部の機能障害	写真005,支承部202			
その他	Ⅰ					

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

定期点検時に記録

(判定区分)	(所見等)
Ⅱ	予防保全の観点から、支承部の補修を実施することが望ましい。その他、主桁、横桁、床版、下部工、防護柵、地覆、排水装置については損傷の進行を確認していくことが望ましい。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1972 年	14.5 m	4 m
橋梁形式		
鋼溶接 H 形鋼(非合成)橋、その他(橋台)直接基礎2基		

起点



終点

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度 経度	43° 4' 32.96" 143° 57' 37.1"	橋梁ID
高砂橋 (フリガナ)タカサゴバシ	縫別上茶路線	北海道白糠郡白糠町南大曲				43.07582,143.96030
管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
北海道白糠町	2021.11.12	茶路川	無	一般道	その他	水道

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)

定期点検者

道土木・ダイシン・和光・太平洋総合・山下コンサル JV 黒田 秀忠

定期点検時に記録

応急措置後に記録

部材名	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	応急措置後の 判定区分	応急措置内容	応急措置及び 判定実施年月日
上部構造						
主桁	Ⅲ	腐食	写真001,主桁01			
横桁	Ⅰ					
床版	Ⅱ	漏水・遊離石灰	写真003,床版03			
下部構造	Ⅲ	補修・補強材の損傷	写真004,下部工02			
支承部	Ⅱ	腐食	写真005,支承部101			
その他	Ⅱ	漏水・滞水	写真006,伸縮装置01			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

定期点検時に記録

(判定区分)	(所見等)
Ⅲ	早期措置の観点から、主桁、下部工の補修を早期に実施する。予防保全の観点から、床版、支承部、伸縮装置、排水装置、舗装の補修を実施することが望ましい。横桁、対傾構、防護柵、地覆、達橋防止装置、添架物については損傷の進行を確認していくことが望ましい。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1990 年	85 m	7.5 m
橋梁形式		
単純鋼桁橋 1桁(合成)橋×4連、逆T式橋台直接基礎1基、壁式橋脚(RC)直接基礎3基、重力式橋台直接基礎1基		

起点



終点

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度 経度	43° 4' 30.8" 143° 57' 20.15"	橋梁ID
寿橋 (フリガナ)コトブキバシ	縫別上茶路線	北海道白糠郡白糠町南大曲				43.07522,143.95559
管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
北海道白糠町	2021.11.08	茶路川	無	一般道	その他	水道

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)

定期点検者

デザイン設計補 本間様・渡部様 和光技研補 長坂様 太平洋総 黒田 秀忠

定期点検時に記録

応急措置後に記録

部材名	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合 に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	応急措置後の 判定区分	応急措置内容	応急措置及び 判定実施年月日
上部構造						
主桁	Ⅱ	腐食	写真001,主桁02			
横桁	Ⅰ					
床版	Ⅲ	床版ひびわれ	写真003,床版03			
下部構造	Ⅱ	洗掘	写真004,下部工02			
支承部	Ⅲ	支承部の機能障害	写真005,支承部203			
その他	Ⅱ	漏水・滞水	写真006,伸縮装置01			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

定期点検時に記録

(判定区分)	(所見等)
Ⅲ	早期措置の観点から、床版、支承部の補修を早期に実施する。予防保全の観点から、主桁、下部工、伸縮装置、排水装置、舗装の補修を実施することが望ましい。横桁、対傾構、防護柵、地覆、落橋防止装置、添架物については損傷の進行を確認していくことが望ましい。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1966 年	80.1 m	7.5 m
橋梁形式		
単純鋼溶接1桁(合成)橋×4連、重力式橋台直接基礎2基、壁式橋脚(RC)直接基礎3基		

起点



終点

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	43° 4′ 48.8″	
				経度	143° 56′ 28.31″	
観溪橋 (フリガナ)カンケイハシ	縫別上茶路線	北海道白糠町南大曲				
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
北海道白糠町	2017.10.08	茶路川	有	一般道	その他	

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)				点検者	道土木・デザイン・和光・太平洋総合特定委託業務共同企業体	点検責任者	和田 隆宏
点検時に記録				措置後に記録			
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合 に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	措置後の 判定区分	変状の種類	措置及び判定 実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ					
	横桁	Ⅰ					
	床版	Ⅱ	床版ひびわれ	写真003,床版02			
下部構造		Ⅰ					
支承部		Ⅰ					
その他		Ⅱ	漏水・滞水	写真006,伸縮装置02			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)				措置後に記録	
点検時に記録				(再判定区分)	(再判定実施年月日)
(判定区分) Ⅱ	(所見等)	機能回復対策として橋面防水(ひび割れ進行防止)、舗装補修、漏水対策として伸縮取替実施することが望ましい。			

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1997年	128m	7.50m

起点



終点

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	43° 4′ 22.39″	
				経度	143° 56′ 25.51″	
観峯橋 (フリガナ)カンホウハシ	縫別上茶路線	北海道白糠町南大曲				
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
北海道白糠町	2017.10.10	茶路川	有	一般道	その他	

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)				点検者	道土木・デザイン・和光・太平洋総合特定委託業務共同企業体	点検責任者	和田 隆宏
点検時に記録				措置後に記録			
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合 に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	措置後の 判定区分	変状の種類	措置及び判定 実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ					
	横桁	Ⅰ					
	床版	Ⅱ	床版ひびわれ	写真003,床版03			
下部構造		Ⅱ	ひびわれ	写真004,下部工02			
支承部		Ⅰ					
その他		Ⅱ	うき・剥離・鉄筋露出	写真006,地覆02			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)					措置後に記録	
点検時に記録					措置後に記録	
(判定区分)	(所見等) 機能回復対策として橋面防水(ひび割れ進行防止)、下部工ひびわれ補修、地覆の断面補修を実施することが望ましい。				(再判定区分)	(再判定実施年月日)
Ⅱ						

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1993年	90m	7.50m

起点



終点

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度 経度	43° 4' 6.76" 143° 56' 14.04"	橋梁ID
千国橋 (フリガナ)センゴクバシ	南大曲1号線	北海道白糠郡白糠町南大曲				43.06854,143.93723
管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
北海道白糠町	2021.11.15	茶路川	無	一般道	その他	

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)

定期点検者

道土木・ダイシン・和光・太平洋総合・山下コンサル JV 黒田 秀忠

定期点検時に記録

応急措置後に記録

部材名	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合 に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	応急措置後の 判定区分	応急措置内容	応急措置及び 判定実施年月日
上部構造						
主桁	Ⅱ	防食機能の劣化	写真001,主桁02			
横桁	Ⅱ	防食機能の劣化	写真002,横桁03			
床版	Ⅲ	床版ひびわれ	写真003,床版02			
下部構造	Ⅱ	ひびわれ	写真004,下部工02			
支承部	Ⅱ	ゆるみ・脱落	写真005,支承部101			
その他	Ⅱ	漏水・滞水	写真006,伸縮装置02			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

定期点検時に記録

(判定区分)	(所見等)
Ⅲ	早期措置の観点から、床版の補修を早期に実施する。予防保全の観点から、主桁、横桁、対傾構、下部工、支承部、地覆、舗装の補修を実施することが望ましい。防護柵、排水装置、袖擁壁については損傷の進行を確認していくことが望ましい。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1967 年	80 m	5.5 m
橋梁形式		
単純鋼溶接 I 桁(合成)橋×4連、逆T式橋台直接基礎2基、T型橋脚柱円型(RC)直接基礎3基		

起点



終点

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	42° 59′ 8.43″	
				経度	144° 4′ 10.13″	
カリソ墓地線第1号橋 (フリガナ)カリソボチセンダイ1ゴウバシ	オンネチカップ線	北海道白糠町茶路基線				
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
北海道白糠町	2010.10.17	カリシヨ川	無	一般道	その他	

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)				点検者	道土木・デザイン・和光・太平洋総合特定委託業務共同企業体	点検責任者	和田 隆宏
点検時に記録				措置後に記録			
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合 に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	措置後の 判定区分	変状の種類	措置及び判定 実施年月日
上部構造	主桁	Ⅱ	防食機能の劣化	写真001,主桁02			
	横桁						
	床版	Ⅱ	防食機能の劣化	写真003,床版01			
下部構造		Ⅱ	防食機能の劣化	写真004,下部工02			
支承部							
その他		Ⅱ	防食機能の劣化	写真006,高欄・防護柵02			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)				措置後に記録	
点検時に記録				(再判定区分)	(再判定実施年月日)
(判定区分) Ⅱ	(所見等)	防食対策として上部工・下部工・防護柵の塗装塗替、機能回復対策として路面清掃を実施することが望ましい。			

全景写真(起点側、終点側を記載すること)		
架設年次	橋長	幅員
1989年	14m	3.40m
起点		
		
終点		

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度 経度	42° 58' 3.81" 144° 6' 56.21"	橋梁ID
オンネチカップ線1号橋 (フリガナ)オンネチカップセン1ゴウバシ	オンネチカップ線	北海道白糠郡白糠町庶路西5線				42.96772,144.11561
管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
北海道白糠町	2021.09.04	増井川	無	一般道	その他	

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)

定期点検者

道土木・ダイシン・和光・太平洋総合・山下コンサル JV 黒田 秀忠

定期点検時に記録

応急措置後に記録

部材名	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合 に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	応急措置後の 判定区分	応急措置内容	応急措置及び 判定実施年月日
上部構造						
主桁	Ⅰ					
横桁						
床版						
下部構造	Ⅰ					
支承部						
その他	Ⅰ					

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

定期点検時に記録

(判定区分)	(所見等)
Ⅰ	健全ではあるが、地覆については損傷の進行を確認していくことが望ましい。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
2020 年	7.16 m	4.5 m
橋梁形式		
RC溝橋(BOXカルバート)、その他(橋台)直接基礎2基		

起点



終点

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	43° 0′ 44.6″		
				経度	144° 6′ 46.29″		
末広橋 (フリガナ)スエヒロバシ	庶路8号線	北海道白糠町茶路基線					
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)	
北海道白糠町	2017.10.17	イルモクンナイ川	有	一般道	その他		

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)

点検者				点検責任者		
道土木・ダイシン・和光・太平洋総合特定委託業務共同企業体				ダイシン設計(株) 本間 三朝		
点検時に記録				措置後に記録		
部材名	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合 に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	措置後の 判定区分	変状の種類	措置及び判定 実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ				
	横桁					
	床版	Ⅰ				
下部構造	Ⅰ					
支承部	Ⅰ					
その他	Ⅱ	腐食	写真006,排水装置01			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

点検時に記録		措置後に記録	
(判定区分)	(所見等) 構造物の機能に支障が生じる損傷は見られないが、防食対策として 排水管の塗替塗装を実施することが望ましい。	(再判定区分)	(再判定実施年月日)
Ⅰ			

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員	起点		終点
1992年	13m	7.50m			

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	43° 1′ 11.86″		
				経度	144° 7′ 40.21″		
泊別2号橋 (フリガナ)トマリベツ2ゴウハシ	庶路8号線	北海道白糠町泊別					
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)	
北海道白糠町	2017.10.16	トマリベツ川	有	一般道	その他		

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)

点検者				点検責任者		
道土木・デザイン・和光・太平洋総合特定委託業務共同企業体				和田 隆宏		
点検時に記録				措置後に記録		
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合 に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	措置後の 判定区分	措置及び判定 実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ				
	横桁	Ⅰ				
	床版	Ⅰ				
下部構造		Ⅰ				
支承部		Ⅰ				
その他		Ⅱ	ゆるみ・脱落	写真006,高欄・防護柵01		

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

点検時に記録		措置後に記録	
(判定区分)	(所見等) 構造物の機能に支障が生じる損傷は見られないが、 防護柵補修を実施することが望ましい。	(再判定区分)	(再判定実施年月日)
Ⅰ			

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1997年	27m	7.50m
起点  終点		

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度 経度	43° 0' 50.55" 144° 6' 58.4"	橋梁ID
向日橋 (フリガナ)ヒマワリバシ	庶路8号線	北海道白糠郡白糠町泊別				43.01404,144.11622
管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
北海道白糠町	2021.09.07	庶路川	有	一般道	その他	不明

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)

定期点検者

道土木・ダイシン・和光・太平洋総合・山下コンサル JV 黒田 秀忠

定期点検時に記録

応急措置後に記録

部材名	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	応急措置後の 判定区分	応急措置内容	応急措置及び 判定実施年月日
上部構造						
主桁	Ⅰ					
横桁	Ⅰ					
床版	Ⅰ					
下部構造	Ⅱ	ひびわれ	写真004,下部工02			
支承部	Ⅱ	ゆるみ・脱落	写真005,支承部201			
その他	Ⅱ	亀裂	写真006,高欄・防護柵01			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

定期点検時に記録

(判定区分)	(所見等)
Ⅱ	予防保全の観点から、下部工、支承部、伸縮装置、防護柵の補修を実施することが望ましい。その他、主桁、横桁、対傾構、横構、床版、地覆、排水装置、落橋防止装置、添架物については損傷の進行を確認していくことが望ましい。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1970 年	171.6 m	4 m
橋梁形式		
単純鋼溶接1桁(合成)橋×7連、逆T式橋台杭基礎2基、T型橋脚柱円型(RC)杭基礎6基		

起点



終点

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	43° 1' 19.83"		
				経度	144° 11' 19.78"		
まきば1号橋 (フリガナ)マキバ1ゴウハシ	庶路8号線	北海道白糠郡白糠町庶路					
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)	
北海道白糠町	2018.10.25	キツネ1号川	有	一般道	その他		

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)

点検者				点検責任者		
道土木・デザイン・和光・太平洋総合特定委託業務共同企業体				和田 隆宏		
点検時に記録				措置後に記録		
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合 に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	措置後の 判定区分	措置及び判定 実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ				
	横桁					
	床版	Ⅰ				
下部構造		Ⅰ				
支承部		Ⅰ				
その他		Ⅱ	漏水・滞水	写真006,伸縮装置01		

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

点検時に記録		措置後に記録	
(判定区分)	(所見等)	(再判定区分)	(再判定実施年月日)
Ⅰ	伸縮装置に漏水、舗装に5mm以上のひびわれが見られる。必要に応じ伸縮取替、維持対応による舗装補修の実施が望ましい。		

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員	起点		終点
2002年	14m	7.50m			

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度 経度	43° 1' 19.74"	144° 11' 10.9"
まきば2号橋 (フリガナ)マキバ2ゴウハシ	庶路8号線	北海道白糠郡白糠町庶路				
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
北海道白糠町	2018.09.10	キツネ川	有	一般道	その他	

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)

点検者				点検責任者		
道土木・ダイシン・和光・太平洋総合特定委託業務共同企業体				和田 隆宏		
点検時に記録				措置後に記録		
部材名	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合 に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	措置後の 判定区分	変状の種類	措置及び判定 実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ				
	横桁					
	床版	Ⅰ				
下部構造	Ⅰ					
支承部	Ⅰ					
その他	Ⅱ	漏水・滞水	写真006,伸縮装置01			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

点検時に記録		措置後に記録	
(判定区分)	(所見等)	(再判定区分)	(再判定実施年月日)
Ⅰ	伸縮装置に漏水、舗装に5mm以上のひびわれが見られる。必要に応じ伸縮取替、維持対応による舗装補修の実施が望ましい。		

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員	起点		終点
2003年	15m	7.50m			

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	43° 1′ 20.79″		
				経度	144° 10′ 52.9″		
まきば3号橋 (フリガナ)マキバ3ゴウハシ	庶路8号線	北海道白糠郡白糠町庶路					
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)	
北海道白糠町	2018.10.25	コイトイ川	有	一般道	その他		

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)

点検者				点検責任者		
道土木・デザイン・和光・太平洋総合特定委託業務共同企業体				和田 隆宏		
点検時に記録				措置後に記録		
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	措置後の 判定区分	措置及び判定 実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ				
	横桁					
	床版	Ⅱ	漏水・遊離石灰	写真003,床版01		
下部構造		Ⅰ				
支承部		Ⅰ				
その他		Ⅱ	漏水・滞水	写真006,伸縮装置01		

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

点検時に記録			措置後に記録	
(判定区分)	(所見等)		(再判定区分)	(再判定実施年月日)
Ⅱ	床版(間詰めコン)から遊離石灰(錆汁)、伸縮装置に漏水が見られる。必要に応じ橋面防水設置、伸縮取替の実施が望ましい。			

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員	起点		終点
2005年	21m	7.50m			

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	43° 0′ 57.15″	
				経度	144° 6′ 39.64″	
清溪橋 (フリガナ)セイケイハシ	庶路9号線	北海道白糠町泊別				
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
北海道白糠町	2017.10.03	庶路川	有	一般道	その他	

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)				点検者	道土木・デザイン・和光・太平洋総合特定委託業務共同企業体	点検責任者	和田 隆宏
点検時に記録					措置後に記録		
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合 に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	措置後の 判定区分	変状の種類	措置及び判定 実施年月日
上部構造	主桁	Ⅱ	漏水・遊離石灰	写真001,主桁05			
	横桁	Ⅱ	うき・剥離・鉄筋露出	写真002,横桁02			
	床版	Ⅰ					
下部構造		Ⅱ	漏水・滞水	写真004,下部工02			
支承部		Ⅰ					
その他		Ⅱ	漏水・滞水	写真006,伸縮装置02			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)				措置後に記録	
点検時に記録				(再判定区分)	(再判定実施年月日)
(判定区分) Ⅱ	(所見等)	機能回復対策として橋面防水、上部工断面補修、下部工法面排水工、排水管補修、舗装補修、漏水対策として伸縮取替を実施することが望ましい。			

全景写真(起点側、終点側を記載すること)		
架設年次	橋長	幅員
1994年	197m	9.0m
起点  終点		

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	43° 1′ 47.25″		
				経度	144° 7′ 55.78″		
泊別1号橋 (フリガナ)トマリベツ1ゴウハシ	庶路10号線	北海道白糠町庶路東					
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)	
北海道白糠町	2017.11.06	トマリベツ川	無	一般道	その他		

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)

点検者				点検責任者		
道土木・デザイン・和光・太平洋総合特定委託業務共同企業体				和田 隆宏		
点検時に記録				措置後に記録		
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合 に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	措置後の 判定区分	措置及び判定 実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ				
	横桁					
	床版	Ⅱ	漏水・遊離石灰	写真003,床版01		
下部構造		Ⅰ				
支承部		Ⅰ				
その他		Ⅱ	ゆるみ・脱落	写真006,高欄・防護柵02		

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

点検時に記録		措置後に記録	
(判定区分)	(所見等)	(再判定区分)	(再判定実施年月日)
Ⅱ	漏水対策として橋面防水、機能回復対策として防護柵補修、 防食対策として排水管塗替塗装を実施することが望ましい。		

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1991年	21m	6.50m
起点  終点		

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	43° 1′ 46.22″	
				経度	144° 8′ 2.54″	
中原橋 (フリガナ)ナカハラバシ	庶路10号線	北海道白糠町庶路東4線				
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
北海道白糠町	2017.11.08	中原川	無	一般道	その他	

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)				点検者	道土木・デザイン・和光・太平洋総合特定委託業務共同企業体	点検責任者	和田 隆宏
点検時に記録				措置後に記録			
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合 に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	措置後の 判定区分	変状の種類	措置及び判定 実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ					
	横桁						
	床版	Ⅰ					
下部構造		Ⅰ					
支承部		Ⅰ					
その他		Ⅱ	漏水・滞水	写真006,舗装01			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)				措置後に記録	
点検時に記録				(再判定区分)	(再判定実施年月日)
(判定区分) Ⅰ	(所見等)	構造物の機能に支障が生じる損傷は見られないが、機能回復対策として路面清掃、防護柵補修、防食対策として排水管塗替塗装を実施することが望ましい。			

全景写真(起点側、終点側を記載すること)		
架設年次	橋長	幅員
1992年	10m	6.50m
起点		
		
終点		

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度 経度	43° 1' 47.69" 144° 5' 37.5"	橋梁ID
本岐橋 (フリガナ)ホンキバシ	庶路本岐線	北海道白糠郡白糠町中庶路				43.02991,144.09375
管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
北海道白糠町	2021.10.05	ケトンチ川	無	一般道	その他	

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)

定期点検者

道土木・ダイシン・和光・太平洋総合・山下コンサル JV 黒田 秀忠

定期点検時に記録

応急措置後に記録

部材名	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	応急措置後の 判定区分	応急措置内容	応急措置及び 判定実施年月日
上部構造						
主桁	Ⅰ					
横桁	Ⅰ					
床版	Ⅲ	うき・剥離・鉄筋露出	写真003,床版01			
下部構造	Ⅱ	ひびわれ	写真004,下部工01			
支承部	Ⅰ					
その他	Ⅱ	漏水・滞水	写真006,伸縮装置01			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

定期点検時に記録

(判定区分)	(所見等)
Ⅲ	早期措置の観点から、床版の補修を早期に実施する。予防保全の観点から、下部工、伸縮装置、防護柵、地覆の補修を実施することが望ましい。 主桁、対傾構、支承部、排水装置、舗装、袖擁壁については損傷の進行を確認していくことが望ましい。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1968 年	18.5 m	4 m
橋梁形式 鋼溶接 H形鋼(合成)橋、重力式橋台直接基礎2基		

起点



終点

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度 経度	43° 5' 10" 144° 3' 10.29"	橋梁ID
オニヨップ大橋 (フリガナ)オニヨップオオハシ	上庶路阿寒線	北海道白糠郡白糠町上庶路				43.08611,144.05285
管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
北海道白糠町	2021.09.25	庶路川	有	一般道	その他	水道

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)

定期点検者

道土木・ダイシン・和光・太平洋総合・山下コンサル JV 黒田 秀忠

定期点検時に記録

応急措置後に記録

部材名	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	応急措置後の 判定区分	応急措置内容	応急措置及び 判定実施年月日
上部構造	主桁	Ⅱ	ゆるみ・脱落	写真001,主桁02		
	横桁	Ⅰ				
	床版	Ⅰ				
下部構造	Ⅱ	うき・剥離・鉄筋露出	写真004,下部工02			
支承部	Ⅱ	支承部の機能障害	写真005,支承部202			
その他	Ⅱ	遊間の異常	写真006,伸縮装置02			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

定期点検時に記録

(判定区分)	(所見等)
Ⅱ	予防保全の観点から、主桁、下部工、支承部、伸縮装置、防護柵、舗装の補修を実施することが望ましい。その他、対傾構、横構、床版、地覆、排水装置、添架物については損傷の進行を確認していくことが望ましい。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1972 年	140.2 m	4.6 m
橋梁形式		
単純鋼溶接1桁(合成)橋×5連、逆T式橋台直接基礎2基、T型橋脚柱円型(RC)直接基礎4基		

起点



終点

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度 経度	43° 5' 50.74" 144° 3' 57.92"	橋梁ID
オニヨップ沢第1号橋 (フリガナ)オニヨップザワダイイチゴウバシ	上庶路阿寒線	北海道白糠郡白糠町上庶路				43.09742,144.06609
管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
北海道白糠町	2021.09.08	オニヨップ川	有	一般道	その他	

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)

定期点検者

道土木・ダイシン・和光・太平洋総合・山下コンサル JV 黒田 秀忠

定期点検時に記録

応急措置後に記録

部材名	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合 に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	応急措置後の 判定区分	応急措置内容	応急措置及び 判定実施年月日
上部構造	Ⅱ	うき・剥離・鉄筋露出	写真001,主桁01			
主桁						
横桁						
床版						
下部構造	Ⅱ	ひびわれ	写真004,下部工01			
支承部	Ⅰ					
その他	Ⅱ	漏水・滞水	写真006,伸縮装置01			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

定期点検時に記録

(判定区分)	(所見等)
Ⅱ	予防保全の観点から、主桁、下部工、伸縮装置、地覆の補修を実施することが望ましい。その他、防護柵、排水装置、袖擁壁については損傷の進行を確認していくことが望ましい。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1973 年	6 m	4.6 m
橋梁形式		
RC中実床版橋、重力式橋台直接基礎2基		

起点



終点

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度 経度	43° 6' 6.43" 144° 4' 10.51"	橋梁ID
オニヨップ沢第2号橋 (フリガナ)オニヨップザワダイニゴウバシ	上庶路阿寒線	北海道白糠郡白糠町上庶路				
管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
北海道白糠町	2021.09.27	オニヨップ川	有	一般道	その他	

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)

定期点検者

道土木・ダイシン・和光・太平洋総合・山下コンサル JV 黒田 秀忠

定期点検時に記録

応急措置後に記録

部材名	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	応急措置後の 判定区分	応急措置内容	応急措置及び 判定実施年月日
上部構造						
主桁	Ⅰ					
横桁	Ⅰ					
床版	Ⅰ					
下部構造	Ⅱ	うき・剥離・鉄筋露出	写真004,下部工01			
支承部	Ⅲ	支承部の機能障害	写真005,支承部102			
その他	Ⅱ	漏水・滞水	写真006,伸縮装置02			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

定期点検時に記録

(判定区分)	(所見等)
Ⅲ	早期措置の観点から、支承部の補修を早期に実施する。予防保全の観点から、下部工、伸縮装置の補修を実施することが望ましい。主桁、横桁、床版、防護柵、地覆、排水装置については損傷の進行を確認していくことが望ましい。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1973 年	12.4 m	4.6 m
橋梁形式		
鋼溶接 H形鋼(合成)橋、重力式橋台直接基礎2基		

起点



終点

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	43° 6′ 23.88″		
				経度	144° 4′ 15.25″		
オニヨップ沢第3号橋 (フリガナ)オニヨップザワダイサンゴウバシ	上庶路阿寒線	北海道白糠町上庶路					
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)	
北海道白糠町	2017.10.06	オニヨップ川	有	一般道	その他		

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)				点検者	道土木・デザイン・和光・太平洋総合特定委託業務共同企業体	点検責任者	和田 隆宏
点検時に記録				措置後に記録			
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合 に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	措置後の 判定区分	変状の種類	措置及び判定 実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ					
	横桁	Ⅰ					
	床版	Ⅱ	うき・剥離・鉄筋露出	写真003,床版01			
下部構造		Ⅱ	沈下・移動・傾斜	写真004,下部工01			
支承部		Ⅱ	ゆるみ・脱落	写真005,支承部101			
その他		Ⅱ	防食機能の劣化	写真006,排水装置01			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)				措置後に記録	
点検時に記録					
(判定区分)	(所見等)	機能回復対策として床版の断面・下部工・、支承およびモルタル・防護柵 補修、防食対策として支承・水管塗替塗装を実施することが望ましい。		(再判定区分)	(再判定実施年月日)
Ⅱ					

全景写真(起点側、終点側を記載すること)		
架設年次	橋長	幅員
1974年	12m	4.60m
起点		
		
終点		

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度 経度	43° 6' 37.4" 144° 4' 21.71"	橋梁ID
オニヨップ沢第4号橋 (フリガナ)オニヨップザワダイヨンゴウバン	上庶路阿寒線	北海道白糠郡白糠町上庶路				43.11038,144.07269
管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
北海道白糠町	2021.09.27	オニヨップ川	有	一般道	その他	

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)

定期点検者

道土木・ダイシン・和光・太平洋総合・山下コンサル JV 黒田 秀忠

定期点検時に記録

応急措置後に記録

部材名	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	応急措置後の 判定区分	応急措置内容	応急措置及び 判定実施年月日
上部構造						
主桁	Ⅰ					
横桁	Ⅰ					
床版	Ⅰ					
下部構造	Ⅱ	漏水・遊離石灰	写真004,下部工02			
支承部	Ⅲ	沈下・移動・傾斜	写真005,支承部202			
その他	Ⅱ	ゆるみ・脱落	写真006,高欄・防護柵01			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

定期点検時に記録

(判定区分)	(所見等)
Ⅲ	早期措置の観点から、支承部の補修を早期に実施する。予防保全の観点から、下部工、防護柵、伸縮装置の補修を実施することが望ましい。主桁、対傾構、排水装置、袖擁壁については損傷の進行を確認していくことが望ましい。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1976 年	12.4 m	4.6 m
橋梁形式		
鋼溶接 H形鋼(合成)橋、重力式橋台直接基礎2基		

起点



終点

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	43° 7′ 34.22″		
				経度	144° 1′ 25.82″		
上庶路橋 (フリガナ)カミシヨロハシ	庶路幹線2	北海道白糠郡白糠町庶路					
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)	
北海道白糠町	2018.10.11	庶路川	有	一般道	その他		

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)

点検者				点検責任者		
道土木・デザイン・和光・太平洋総合特定委託業務共同企業体				和田 隆宏		
点検時に記録					措置後に記録	
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合 に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	措置後の 判定区分	措置及び判定 実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ				
	横桁	Ⅰ				
	床版	Ⅱ	床版ひびわれ	写真003,床版02		
下部構造		Ⅰ				
支承部		Ⅰ				
その他		Ⅱ	漏水・滞水	写真006,伸縮装置02		

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

点検時に記録		措置後に記録	
(判定区分)	(所見等)	(再判定区分)	(再判定実施年月日)
Ⅱ	床版に0.25mmのひびわれ、伸縮に漏水が見られる。必要に応じひびわれ補修、伸縮の漏水対策を実施することが望ましい。		

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1999年	76m	7.0m
起点  終点		

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	43° 8′ 59.87″		
				経度	144° 0′ 55.79″		
下の橋 (フリガナ)シモノハシ	庶路幹線2	北海道白糠郡白糠町滝の上					
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)	
北海道白糠町	2018.09.28	庶路川	有	一般道	その他		

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)

点検者				点検責任者		
道土木・デザイン・和光・太平洋総合特定委託業務共同企業体				和田 隆宏		
点検時に記録				措置後に記録		
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合 に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	措置後の 判定区分	措置及び判定 実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ				
	横桁	Ⅰ				
	床版	Ⅰ				
下部構造		Ⅰ				
支承部		Ⅰ				
その他		Ⅱ	漏水・滞水	写真006,伸縮装置01		

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

点検時に記録		措置後に記録	
(判定区分)	(所見等)	(再判定区分)	(再判定実施年月日)
Ⅰ	伸縮装置からの漏水が見られるが、他部材への影響がなく 道路橋の機能に支障がないため経過観察とする。		

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1998年	53m	7.0m

起点



終点

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	43° 9′ 52.81″		
				経度	143° 59′ 48.3″		
滝の下1号橋 (フリガナ)タキノシタ1ゴウバシ	庶路幹線2	北海道白糠町滝の上					
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)	
北海道白糠町	2017.09.29	(沢)	有	一般道	その他		

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)

点検者				点検責任者		
道土木・デザイン・和光・太平洋総合特定委託業務共同企業体				和田 隆宏		
点検時に記録				措置後に記録		
部材名	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	措置後の 判定区分	変状の種類	措置及び判定 実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ				
	横桁	Ⅰ				
	床版	Ⅱ	漏水・遊離石灰	写真003,床版03		
下部構造	Ⅰ					
支承部	Ⅰ					
その他	Ⅱ	漏水・滞水	写真006,伸縮装置01			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

点検時に記録		措置後に記録	
(判定区分)	(所見等) 機能回復対策として床版補修、防護柵補修、舗装補修、漏水対策として伸縮取替を実施することが望ましい。	(再判定区分)	(再判定実施年月日)
Ⅱ			

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1999年	69m	4.0m
起点  終点		

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	43° 9′ 53.46″		
				経度	144° 0′ 3.5″		
滝の下2号橋 (フリガナ)タキノシタ2ゴウバシ	庶路幹線2	北海道白糠郡白糠町滝の上					
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)	
北海道白糠町	2018.10.11	(沢)	有	一般道	その他		

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)

点検者				点検責任者		
道土木・デザイン・和光・太平洋総合特定委託業務共同企業体				和田 隆宏		
点検時に記録				措置後に記録		
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合 に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	措置後の 判定区分	措置及び判定 実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ				
	横桁	Ⅰ				
	床版	Ⅰ				
下部構造		Ⅰ				
支承部		Ⅱ	土砂詰まり	写真005,支承部201		
その他		Ⅱ	舗装の異常	写真006,舗装01		

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

点検時に記録		措置後に記録	
(判定区分)	(所見等)	(再判定区分)	(再判定実施年月日)
Ⅱ	沓座の土砂詰まり、幅10mmの舗装ひび割れが見られる。沓座の清掃および舗装のひびわれ補修を維持で対応することが望ましい。		

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員	起点		終点
1999年	36m	4.0m			

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	43° 10′ 7.44″	
				経度	143° 59′ 59.17″	
滝の下3号橋 (フリガナ)タキノシタ3ゴウバシ	庶路幹線2	北海道白糠郡白糠町滝の上				
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
北海道白糠町	2018.10.11	(沢)	有	一般道	その他	

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)				点検者	道土木・デザイン・和光・太平洋総合特定委託業務共同企業体	点検責任者	和田 隆宏
点検時に記録				措置後に記録			
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合 に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	措置後の 判定区分	変状の種類	措置及び判定 実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ					
	横桁	Ⅰ					
	床版	Ⅱ	床版ひびわれ	写真003,床版01			
下部構造		Ⅱ	漏水・遊離石灰	写真004,下部工01			
支承部		Ⅰ					
その他		Ⅱ	舗装の異常	写真006,舗装01			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)					措置後に記録	
点検時に記録						
(判定区分)	(所見等)	舗装に防水シートが露出する舗装剥がれ、床版にひびわれ、下部工に遊離石灰(錆汁)が見られる。必要に応じ補修を実施することが望ましい。			(再判定区分)	(再判定実施年月日)
Ⅱ						

全景写真(起点側、終点側を記載すること)				
架設年次	橋長	幅員		
2000年	75m	4.0m		
起点				終点

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	43° 10′ 16.33″		
				経度	143° 59′ 34.92″		
滝の下4号橋 (フリガナ)タキノシタ4ゴウキョウ	庶路幹線2	北海道白糠郡白糠町滝の上					
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)	
北海道白糠町	2018.10.11	(沢)	有	一般道	その他		

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)

点検者				点検責任者		
道土木・デザイン・和光・太平洋総合特定委託業務共同企業体				和田 隆宏		
点検時に記録					措置後に記録	
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合 に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	措置後の 判定区分	措置及び判定 実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ				
	横桁	Ⅰ				
	床版	Ⅱ	床版ひびわれ	写真003,床版03		
下部構造		Ⅰ				
支承部		Ⅰ				
その他		Ⅱ	漏水・滞水	写真006,伸縮装置01		

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

点検時に記録		措置後に記録	
(判定区分)	(所見等)	(再判定区分)	(再判定実施年月日)
Ⅱ	床版にひびわれ、伸縮装置に漏水、防護柵にボルトのゆるみ・脱落、舗装にひびわれが見られる。必要に応じ補修を実施することが望ましい。		

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
2001年	113m	4.0m

起点



終点

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	43° 10′ 19.04″		
				経度	143° 59′ 24.26″		
滝の上1号橋 (フリガナ)タキノウエ1ゴウバシ	庶路幹線2	北海道白糠郡白糠町滝の上					
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)	
北海道白糠町	2018.10.11	(沢)	有	一般道	その他		

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)

点検者				点検責任者		
道土木・デザイン・和光・太平洋総合特定委託業務共同企業体				和田 隆宏		
点検時に記録				措置後に記録		
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	措置後の 判定区分	措置及び判定 実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ				
	横桁	Ⅰ				
	床版	Ⅰ				
下部構造		Ⅰ				
支承部		Ⅰ				
その他		Ⅱ	ゆるみ・脱落	写真006,高欄・防護柵01		

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

点検時に記録		措置後に記録	
(判定区分)	(所見等) 道路橋の機能に支障が生じる損傷は見られないが、防護柵の I ボルト脱落は維持での対応が望ましい。	(再判定区分)	(再判定実施年月日)

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員	起点		終点
2000年	48m	4.0m			

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度 経度	43° 10' 16.68"	143° 59' 1.75"
滝の上2号橋 (フリガナ)タキノウエ2ゴウバシ	庶路幹線2	北海道白糠町滝の上				
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
北海道白糠町	2017.11.06	(沢)	有	一般道	その他	

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)

点検者				点検責任者		
道土木・デザイン・和光・太平洋総合特定委託業務共同企業体				和田 隆宏		
点検時に記録				措置後に記録		
部材名	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合 に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	措置後の 判定区分	変状の種類	措置及び判定 実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ				
	横桁	Ⅰ				
	床版	Ⅱ	床版ひびわれ	写真003,床版03		
下部構造	Ⅰ					
支承部	Ⅰ					
その他	Ⅱ	漏水・滞水	写真006,伸縮装置01			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

点検時に記録		措置後に記録	
(判定区分)	(所見等) 機能回復対策として床版補修、防護柵補修、地覆補修、漏水対策として伸縮取替を実施することが望ましい。	(再判定区分)	(再判定実施年月日)
Ⅱ			

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員	起点		終点
2000年	69m	4.0m			

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	43° 10′ 30.4″		
				経度	143° 58′ 59.93″		
タッタマップ橋 (フリガナ)タッタマップハシ	庶路幹線2	北海道白糠郡白糠町滝の上					
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)	
北海道白糠町	2018.09.27	タッタマップ川	有	一般道	その他		

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)

点検者				点検責任者		
道土木・デザイン・和光・太平洋総合特定委託業務共同企業体				和田 隆宏		
点検時に記録				措置後に記録		
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	措置後の 判定区分	措置及び判定 実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ				
	横桁					
	床版	Ⅱ	床版ひびわれ	写真003,床版02		
下部構造		Ⅱ	ひびわれ	写真004,下部工02		
支承部		Ⅰ				
その他		Ⅰ				

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

点検時に記録			措置後に記録	
(判定区分)	(所見等)		(再判定区分)	(再判定実施年月日)
Ⅱ	床版張出部に遊離石灰を伴うひびわれ、橋脚梁天端からのひびわれが見られる。地覆の防水対策、ひびわれ補修を実施することが望ましい。			

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
2002年	151m	4.0m

起点



終点

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	43° 10′ 39.08″		
				経度	143° 58′ 37.69″		
トイベ1号橋 (フリガナ)トイベ1ゴウハシ	庶路幹線2	北海道白糠郡白糠町滝の上					
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)	
北海道白糠町	2018.10.11	トイベ川	有	一般道	その他		

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)

点検者				点検責任者		
道土木・デザイン・和光・太平洋総合特定委託業務共同企業体				和田 隆宏		
点検時に記録				措置後に記録		
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合 に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	措置後の 判定区分	措置及び判定 実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ				
	横桁	Ⅰ				
	床版	Ⅱ	床版ひびわれ	写真003,床版02		
下部構造		Ⅱ	ひびわれ	写真004,下部工02		
支承部		Ⅰ				
その他		Ⅱ	ゆるみ・脱落	写真006,排水装置01		

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

点検時に記録		措置後に記録	
(判定区分)	(所見等)	(再判定区分)	(再判定実施年月日)
Ⅱ	床版、P3柱にひびわれ、排水装置にボルト脱落が見られる。必要に応じひびわれ補修、維持による排水管補修を実施することが望ましい。		

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員	起点		終点
2002年	253m	4.0m			

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	43° 10′ 44.82″		
				経度	143° 58′ 31.66″		
トイベ2号橋 (フリガナ)トイベ2ゴウハシ	庶路幹線2	北海道白糠郡白糠町滝の上					
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)	
北海道白糠町	2018.09.21	(沢)	有	一般道	その他		

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)

点検者				点検責任者		
道土木・デザイン・和光・太平洋総合特定委託業務共同企業体				和田 隆宏		
点検時に記録				措置後に記録		
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合 に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	措置後の 判定区分	措置及び判定 実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ				
	横桁	Ⅰ				
	床版	Ⅱ	床版ひびわれ	写真003,床版03		
下部構造		Ⅰ				
支承部		Ⅰ				
その他		Ⅱ	ゆるみ・脱落	写真006,排水装置01		

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

点検時に記録		措置後に記録	
(判定区分)	(所見等)	(再判定区分)	(再判定実施年月日)
Ⅱ	床版にひびわれ、排水管のボルトゆるみが見られる。必要に応じ補修を実施することが望ましい。ボルトのゆるみは維持での対応が望ましい。		

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員	起点		終点
2002年	58m	4.0m			

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	43° 11′ 3.62″		
				経度	143° 57′ 25.88″		
上の橋 (フリガナ)ウエノハシ	庶路幹線2	北海道白糠町滝の上					
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)	
北海道白糠町	2017.09.29	1号川	有	一般道	その他		

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)

点検者				点検責任者		
道土木・デザイン・和光・太平洋総合特定委託業務共同企業体				和田 隆宏		
点検時に記録				措置後に記録		
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	措置後の 判定区分	措置及び判定 実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ				
	横桁	Ⅰ				
	床版	Ⅰ				
下部構造		Ⅰ				
支承部		Ⅰ				
その他		Ⅰ				

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

点検時に記録		措置後に記録	
(判定区分)	(所見等) 損傷は軽微であるため、経過観察とする。	(再判定区分)	(再判定実施年月日)
Ⅰ			

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
2003年	12m	4.80m

起点



終点

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	43° 11′ 7.58″		
				経度	143° 57′ 19.44″		
幌加橋 (フリガナ)ホロカハシ	庶路幹線2	北海道白糠町庶路					
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)	
北海道白糠町	2017.11.06	ホロカシヨロ川	有	一般道	その他		

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)

点検者				点検責任者		
道土木・デザイン・和光・太平洋総合特定委託業務共同企業体				和田 隆宏		
点検時に記録				措置後に記録		
部材名	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合 に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	措置後の 判定区分	変状の種類	措置及び判定 実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ				
	横桁	Ⅰ				
	床版	Ⅱ	床版ひびわれ	写真003,床版01		
下部構造	Ⅰ					
支承部	Ⅱ	防食機能の劣化	写真005,支承部102			
その他	Ⅱ	ゆるみ・脱落	写真006,高欄・防護柵01			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

点検時に記録		措置後に記録	
(判定区分)	(所見等) 漏水対策として橋面防水、機能回復対策として Ⅱ 支承補修、防護柵、地覆補修を実施することが望ましい。	(再判定区分)	(再判定実施年月日)

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
2004年	119m	4.0m
起点  終点		

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	43° 11' 16.08"		
				経度	143° 57' 19.15"		
夜の橋 (フリガナ)ヨルノハシ	庶路幹線2	北海道白糠町庶路					
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)	
北海道白糠町	2017.10.06	ホロカシヨロ川支流	有	一般道	その他		

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)

点検者				点検責任者		
道土木・デザイン・和光・太平洋総合特定委託業務共同企業体				和田 隆宏		
点検時に記録				措置後に記録		
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	措置後の 判定区分	措置及び判定 実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ				
	横桁	Ⅰ				
	床版	Ⅱ	床版ひびわれ	写真003,床版01		
下部構造		Ⅰ				
支承部		Ⅰ				
その他		Ⅱ	亀裂	写真006,高欄・防護柵01		

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

点検時に記録		措置後に記録	
(判定区分)	(所見等)	(再判定区分)	(再判定実施年月日)
Ⅱ	漏水対策として橋面防水、防護柵、排水装置補修を実施することが望ましい。		

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
2004年	112m	4.0m
起点  終点		

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	43° 12′ 13.57″		
				経度	143° 56′ 58.52″		
大曲橋 (フリガナ)オオマガリハシ	庶路幹線2	北海道白糠町庶路					
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)	
北海道白糠町	2017.11.06	庶路川	無	一般道	その他		

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)

点検者				点検責任者		
道土木・デザイン・和光・太平洋総合特定委託業務共同企業体				和田 隆宏		
点検時に記録				措置後に記録		
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	措置後の 判定区分	措置及び判定 実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ				
	横桁	Ⅰ				
	床版	Ⅰ				
下部構造		Ⅰ				
支承部		Ⅱ	支承部の機能障害	写真005,支承部201		
その他		Ⅱ	ゆるみ・脱落	写真006,伸縮装置02		

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

点検時に記録		措置後に記録	
(判定区分)	(所見等)	(再判定区分)	(再判定実施年月日)
Ⅱ	支承の機能回復対策としてアンカーボルトの再締付け、 防護柵、排水管補修を実施することが望ましい。		

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1997年	143m	4.0m
起点  終点		

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	43° 12′ 32.6″		
				経度	143° 56′ 13.94″		
大岩橋 (フリガナ)オオイワハシ	庶路幹線2	北海道白糠町滝の上					
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)	
北海道白糠町	2017.10.19	庶路川	有	一般道	その他		

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)

点検者				点検責任者		
道土木・デザイン・和光・太平洋総合特定委託業務共同企業体				和田 隆宏		
点検時に記録					措置後に記録	
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合 に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	措置後の 判定区分	措置及び判定 実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ				
	横桁	Ⅰ				
	床版	Ⅱ	床版ひびわれ	写真003,床版02		
下部構造		Ⅰ				
支承部		Ⅰ				
その他		Ⅱ	ゆるみ・脱落	写真006,排水装置01		

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

点検時に記録		措置後に記録	
(判定区分)	(所見等)	(再判定区分)	(再判定実施年月日)
Ⅱ	漏水対策として橋面防水、排水管補修を実施することが望ましい。		

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
2003年	162m	4.0m

起点



終点

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度 経度	43° 12' 53.54" 143° 55' 50.84"	橋梁ID
キソク橋 (フリガナ)キソクバシ	庶路幹線2	北海道白糠郡白糠町滝の上				43.21487,143.93078
管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
北海道白糠町	2021.10.09	庶路川支流	無	一般道	その他	

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)

定期点検者

道土木・ダイシン・和光・太平洋総合・山下コンサル JV 黒田 秀忠

定期点検時に記録

応急措置後に記録

部材名	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	応急措置後の 判定区分	応急措置内容	応急措置及び 判定実施年月日
上部構造						
主桁	Ⅰ					
横桁						
床版						
下部構造	Ⅰ					
支承部	Ⅰ					
その他	Ⅱ	腐食	写真006,排水装置01			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

定期点検時に記録

(判定区分)	(所見等)
Ⅰ	健全ではあるが、予防保全の観点から排水装置の補修を実施することが望ましい。主桁、下部工、支承部、地覆については損傷の進行を確認していくことが望ましい。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1964 年	4 m	4 m
橋梁形式	RC床版橋(その他)、その他(橋台)2基	

起点



終点

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度 経度	43° 13' 23.13" 143° 55' 47.77"	橋梁ID
分岐橋 (フリガナ)ブンキバシ	庶路幹線2	北海道白糠郡白糠町滝の上				43.22309,143.92993
管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
北海道白糠町	2021.10.04	クッチャロベツ川	無	一般道	その他	

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)

定期点検者

道土木・ダイシン・和光・太平洋総合・山下コンサル JV 黒田 秀忠

定期点検時に記録

応急措置後に記録

部材名	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	応急措置後の 判定区分	応急措置内容	応急措置及び 判定実施年月日
上部構造						
主桁	Ⅰ					
横桁	Ⅰ					
床版	Ⅰ					
下部構造	Ⅰ					
支承部	Ⅰ					
その他	Ⅱ	漏水・滞水	写真006,伸縮装置01			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

定期点検時に記録

(判定区分)	(所見等)
Ⅰ	健全ではあるが、予防保全の観点から伸縮装置、排水装置の補修を実施することが望ましい。その他、主桁、対傾構、横構、床版、下部工、支承部、防護柵、地覆については損傷の進行を確認していくことが望ましい。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1965 年	27.7 m	4 m
橋梁形式		
鋼溶接 I桁(合成)橋、重力式橋台直接基礎2基		

起点



終点

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度 経度	43° 13' 27.95" 143° 55' 44.56"	橋梁ID
さがみ橋 (フリガナ)サガミバシ	庶路幹線2	北海道白糠郡白糠町滝の上				43.22442,143.92904
管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
北海道白糠町	2021.10.09	クッチャロベツ川	無	一般道	その他	

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)

定期点検者

道土木・ダイシン・和光・太平洋総合・山下コンサル JV 黒田 秀忠

定期点検時に記録

応急措置後に記録

部材名	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	応急措置後の 判定区分	応急措置内容	応急措置及び 判定実施年月日
上部構造						
主桁	Ⅰ					
横桁	Ⅰ					
床版	Ⅰ					
下部構造	Ⅰ					
支承部	Ⅱ	支承部の機能障害	写真005,支承部201			
その他	Ⅱ	漏水・滞水	写真006,伸縮装置02			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

定期点検時に記録

(判定区分)	(所見等)
Ⅱ	予防保全の観点から、支承部、伸縮装置、防護柵の補修を実施することが望ましい。その他、主桁、対傾構、横構、床版、下部工、地覆、排水装置については損傷の進行を確認していくことが望ましい。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1965 年	27.7 m	4 m
橋梁形式		
鋼溶接 I 桁(合成)橋、重力式橋台直接基礎2基		

起点



終点

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度 経度	43° 13' 49.74" 143° 55' 35.03"	橋梁ID
里の橋 (フリガナ)サトノハシ	庶路幹線2	北海道白糠郡白糠町滝の上				
管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
北海道白糠町	2021.10.09	クッチャロベツ川	無	一般道	その他	

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)

定期点検者

道土木・ダイシン・和光・太平洋総合・山下コンサル JV 黒田 秀忠

定期点検時に記録

応急措置後に記録

部材名	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	応急措置後の 判定区分	応急措置内容	応急措置及び 判定実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ				
	横桁	Ⅰ				
	床版	Ⅱ	床版ひびわれ 写真003,床版02			
下部構造	Ⅰ					
支承部	Ⅲ	支承部の機能障害	写真005,支承部201			
その他	Ⅱ	漏水・滞水	写真006,伸縮装置01			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

定期点検時に記録

(判定区分)	(所見等)
Ⅲ	早期措置の観点から、支承部の補修を早期に実施する。予防保全の観点から、床版、伸縮装置、防護柵の補修を実施することが望ましい。主桁、横桁、下部工、排水装置については損傷の進行を確認していくことが望ましい。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1966 年	30.9 m	4 m
橋梁形式		
単純鋼溶接 H形鋼(合成)橋×2連、重力式橋台直接基礎2基、壁式橋脚(RC)1基		

起点



終点

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	43° 15′ 12.3″		
				経度	143° 56′ 29.59″		
本流橋 (フリガナ)ホンリュウバシ	庶路幹線2	北海道白糠町滝の上					
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)	
北海道白糠町	2017.11.06	庶路川	有	一般道	その他		

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)

点検者				点検責任者		
道土木・デザイン・和光・太平洋総合特定委託業務共同企業体				和田 隆宏		
点検時に記録				措置後に記録		
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合 に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	措置後の 判定区分	措置及び判定 実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ				
	横桁	Ⅰ				
	床版	Ⅰ				
下部構造		Ⅰ				
支承部		Ⅱ	支承部の機能障害	写真005,支承部201		
その他		Ⅱ	漏水・滞水	写真006,伸縮装置01		

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

点検時に記録		措置後に記録	
(判定区分)	(所見等)	(再判定区分)	(再判定実施年月日)
Ⅱ	支承の機能回復としてアンカーボルトの再締付け・モルタル補修、 漏水対策として伸縮取替、地覆・防護柵補修を実施することが望ましい。		

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員	起点		終点
1968年	41m	4.0m			

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度 経度	43° 14' 35.63" 143° 55' 54.15"	橋梁ID
登嶺橋 (フリガナ)トウレイバシ	庶路幹線2支線	北海道白糠郡白糠町滝の上				
管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
北海道白糠町	2021.10.09	クッチャロベツ川	無	一般道	その他	

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)

定期点検者

道土木・ダイシン・和光・太平洋総合・山下コンサル JV 黒田 秀忠

定期点検時に記録

応急措置後に記録

部材名	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	応急措置後の 判定区分	応急措置内容	応急措置及び 判定実施年月日
上部構造						
主桁	Ⅰ					
横桁	Ⅰ					
床版	Ⅱ	うき・剥離・鉄筋露出	写真003,床版02			
下部構造	Ⅰ					
支承部	Ⅲ	ゆるみ・脱落	写真005,支承部101			
その他	Ⅱ	遊間の異常	写真006,伸縮装置01			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

定期点検時に記録

(判定区分)	(所見等)
Ⅲ	早期措置の観点から、支承部の補修を早期に実施する。予防保全の観点から、床版、伸縮装置、地覆の補修を実施することが望ましい。主桁、横桁、防護柵、排水装置については損傷の進行を確認していくことが望ましい。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1966 年	20.4 m	4 m
橋梁形式 鋼溶接 H形鋼(合成)橋、重力式橋台直接基礎2基		

起点



終点

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度 経度	43° 6' 16.98" 144° 1' 14.24"	橋梁ID
石の花第1号橋 (フリガナ)イシノハナダイ1ゴウバシ	上庶路本流線	北海道白糠郡白糠町上庶路				43.10471,144.02062
管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
北海道白糠町	2021.10.09	オンタシナイ川	無	一般道	その他	

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)

定期点検者

道土木・ダイシン・和光・太平洋総合・山下コンサル JV 黒田 秀忠

定期点検時に記録

応急措置後に記録

部材名	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	応急措置後の 判定区分	応急措置内容	応急措置及び 判定実施年月日
上部構造						
主桁	Ⅰ					
横桁	Ⅰ					
床版	Ⅰ					
下部構造	Ⅱ	ひびわれ	写真004,下部工02			
支承部	Ⅱ	支承部の機能障害	写真005,支承部101			
その他	Ⅰ					

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

定期点検時に記録

(判定区分)	(所見等)
Ⅱ	予防保全の観点から、下部工、支承部の補修を実施することが望ましい。その他、主桁、横桁、床版、防護柵、地覆、排水装置、土留め擁壁については損傷の進行を確認していくことが望ましい。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1972 年	15.4 m	4.6 m
橋梁形式		
鋼溶接 H形鋼(合成)橋、重力式橋台直接基礎2基		

起点



終点

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度 経度	43° 6' 12.09" 144° 1' 8.02"	橋梁ID
石の花第2号橋 (フリガナ)イシノハナダイ2ゴウバシ	上庶路本流線	北海道白糠郡白糠町上庶路				43.10335,144.01889
管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
北海道白糠町	2021.10.09	オンタシナイ川	無	一般道	その他	

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)

定期点検者

道土木・ダイシン・和光・太平洋総合・山下コンサル JV 黒田 秀忠

定期点検時に記録

応急措置後に記録

部材名	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合 に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	応急措置後の 判定区分	応急措置内容	応急措置及び 判定実施年月日
上部構造						
主桁	Ⅰ					
横桁	Ⅰ					
床版	Ⅰ					
下部構造	Ⅰ					
支承部	Ⅰ					
その他	Ⅱ	ゆるみ・脱落	写真006,高欄・防護柵01			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

定期点検時に記録

(判定区分)	(所見等)
Ⅰ	健全ではあるが、予防保全の観点から、防護柵、排水装置の補修を実施することが望ましい。その他、主桁、床版、下部工、支承部、地覆、土留め擁壁については損傷の進行を確認していくことが望ましい。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1972 年	15.4 m	4.6 m
橋梁形式 鋼溶接 H形鋼(合成)橋、重力式橋台直接基礎2基		

起点



終点

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度 経度	43° 6' 7.89" 144° 1' 1.99"	橋梁ID
石の花第3号橋 (フリガナ)イシノハナダイ3ゴウバシ	上庶路本流線	北海道白糠郡白糠町上庶路				43.10219,144.01721
管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
北海道白糠町	2021.10.09	オンタシナイ川	無	一般道	その他	

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)

定期点検者

道土木・デザイン・和光・太平洋総合・山下コンサル JV 黒田 秀忠

定期点検時に記録

応急措置後に記録

部材名	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	応急措置後の 判定区分	応急措置内容	応急措置及び 判定実施年月日
上部構造						
主桁	Ⅰ					
横桁	Ⅰ					
床版	Ⅰ					
下部構造	Ⅰ					
支承部	Ⅱ	支承部の機能障害	写真005,支承部201			
その他	Ⅱ	漏水・滞水	写真006,伸縮装置02			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

定期点検時に記録

(判定区分)	(所見等)
Ⅱ	予防保全の観点から、支承部、伸縮装置の補修を実施することが望ましい。その他、主桁、横桁、床版、下部工、防護柵、地覆、排水装置については損傷の進行を確認していくことが望ましい。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1973 年	12.4 m	4.6 m
橋梁形式 鋼溶接 H形鋼(合成)橋、重力式橋台直接基礎2基		

起点



終点

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度 経度	43° 4' 57.48" 143° 58' 48.16"	橋梁ID
麓橋 (フリガナ)フモトバシ	上庶路本流線	北海道白糠郡白糠町縫別				43.08263,143.98004
管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
北海道白糠町	2021.11.11	縫別川	無	一般道	その他	水道

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)

定期点検者

道土木・ダイシン・和光・太平洋総合・山下コンサル JV 黒田 秀忠

定期点検時に記録

応急措置後に記録

部材名	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	応急措置後の 判定区分	応急措置内容	応急措置及び 判定実施年月日
上部構造						
主桁	Ⅱ	漏水・遊離石灰	写真001,主桁01			
横桁						
床版	Ⅱ	漏水・遊離石灰	写真003,床版01			
下部構造	Ⅰ					
支承部	Ⅰ					
その他	Ⅱ	漏水・滞水	写真006,伸縮装置02			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

定期点検時に記録

(判定区分)	(所見等)
Ⅱ	予防保全の観点から、主桁、床版、伸縮装置、防護柵、地覆、排水装置、舗装の補修を実施することが望ましい。その他、下部工、支承部、添架物、擁壁については損傷の進行を確認していくことが望ましい。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1961 年	34.3 m	4 m
橋梁形式		
単純PC桁橋(その他)×3連、重力式橋台直接基礎2基、壁式橋脚(RC)直接基礎2基		

起点



終点

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度 経度	43° 4' 51.87" 143° 58' 29.82"	橋梁ID
久遠橋 (フリガナ)クオンバシ	上庶路本流線	北海道白糠郡白糠町縫別				43.08107,143.97495
管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
北海道白糠町	2021.10.18	縫別川	無	一般道	その他	水道

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)

定期点検者

道土木・ダイシン・和光・太平洋総合・山下コンサル JV 黒田 秀忠

定期点検時に記録

応急措置後に記録

部材名	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合 に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	応急措置後の 判定区分	応急措置内容	応急措置及び 判定実施年月日
上部構造						
主桁	Ⅱ	漏水・遊離石灰	写真001,主桁09			
横桁						
床版	Ⅱ	漏水・遊離石灰	写真003,床版01			
下部構造	Ⅲ	洗掘	写真004,下部工02			
支承部	Ⅰ					
その他	Ⅱ	漏水・滞水	写真006,伸縮装置02			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

定期点検時に記録

(判定区分)	(所見等)
Ⅲ	早期措置の観点から、下部工の洗掘対策を早期に実施する。予防保全の観点から、主桁、床版、伸縮装置、排水装置、舗装の補修を実施することが望ましい。支承部、防護柵、地覆、添架物については損傷の進行を確認していくことが望ましい。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1987 年	34.3 m	6.5 m
橋梁形式		
単純PC桁橋(その他)×3連、逆T式橋台直接基礎2基、壁式橋脚(RC)直接基礎2基		

起点



終点

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	43° 0′ 55.84″		
				経度	144° 7′ 41.36″		
泊別橋 (フリガナ)トマリベツハシ	乳呑泊別線	北海道白糠郡白糠町オレウケナイ					
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)	
北海道白糠町	2018.09.13	泊別川	有	一般道	その他		

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)

点検者				点検責任者		
道土木・デザイン・和光・太平洋総合特定委託業務共同企業体				和田 隆宏		
点検時に記録					措置後に記録	
部材名	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	措置後の 判定区分	変状の種類	措置及び判定 実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ				
	横桁	Ⅰ				
	床版	Ⅱ	床版ひびわれ	写真003,床版05		
下部構造	Ⅰ					
支承部	Ⅰ					
その他	Ⅱ	ゆるみ・脱落	写真006,高欄・防護柵01			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

点検時に記録		措置後に記録	
(判定区分)	(所見等)	(再判定区分)	(再判定実施年月日)
Ⅱ	床版に0.1mmのひびわれ、防護柵にボルトの脱落が見られる。必要に応じひびわれ補修、維持による防護柵補修を実施することが望ましい。		

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員	起点		終点
2000年	27m	7.50m			

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	43° 0′ 37.97″		
				経度	144° 8′ 21.26″		
乳呑橋 (フリガナ)チノミハシ	乳呑泊別線	北海道白糠郡白糠町トウパラベツ					
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)	
北海道白糠町	2018.10.22	井出川	有	一般道	その他		

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)

点検者				点検責任者		
道土木・デザイン・和光・太平洋総合特定委託業務共同企業体				和田 隆宏		
点検時に記録				措置後に記録		
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	措置後の 判定区分	措置及び判定 実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ				
	横桁					
	床版	Ⅰ				
下部構造		Ⅰ				
支承部		Ⅰ				
その他		Ⅱ	舗装の異常	写真006,舗装01		

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

点検時に記録		措置後に記録	
(判定区分)	(所見等) 道路橋の機能に支障が生じる損傷は見られないが、必要に応じ維持対応で舗装の補修を実施することが望ましい。	(再判定区分)	(再判定実施年月日)
Ⅰ			

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1999年	11m	7.50m

起点



終点

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	43° 1' 32.19"		
				経度	144° 7' 38.8"		
牧場橋 (フリガナ)マキババシ	庶路泊別線	北海道白糠町トウパラベツ					
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)	
北海道白糠町	2017.10.06	泊別第1号明渠排水路	無	一般道	その他		

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)

点検者				点検責任者		
道土木・デザイン・和光・太平洋総合特定委託業務共同企業体				和田 隆宏		
点検時に記録				措置後に記録		
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合 に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	措置後の 判定区分	措置及び判定 実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ				
	横桁					
	床版	Ⅰ				
下部構造		Ⅱ	ひびわれ	写真004,下部工02		
支承部		Ⅰ				
その他		Ⅱ	防食機能の劣化	写真006,排水装置01		

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

点検時に記録		措置後に記録	
(判定区分)	(所見等) 機能回復対策として下部工ひびわれ・地覆補修、 排水管の塗替塗装を実施することが望ましい。	(再判定区分)	(再判定実施年月日)
Ⅱ			

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1992年	10m	6.50m

起点



終点

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	43° 2′ 6.37″		
				経度	144° 7′ 49.44″		
久保橋 (フリガナ)クボバシ	庶路泊別線	北海道白糠町泊別					
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)	
北海道白糠町	2017.10.17	トマリベツ川支流	無	一般道	その他		

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)

点検者				点検責任者		
道土木・デザイン・和光・太平洋総合特定委託業務共同企業体				和田 隆宏		
点検時に記録				措置後に記録		
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	措置後の 判定区分	措置及び判定 実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ				
	横桁					
	床版	Ⅱ	漏水・遊離石灰	写真003,床版03		
下部構造		Ⅰ				
支承部		Ⅰ				
その他		Ⅱ	ゆるみ・脱落	写真006,高欄・防護柵01		

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

点検時に記録		措置後に記録	
(判定区分)	(所見等) 漏水対策として橋面防水、防護柵補修、 II 排水管の塗替塗装を実施することが望ましい。	(再判定区分)	(再判定実施年月日)

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1991年	11m	3.50m

起点



終点

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	42° 59' 12.25"		
				経度	144° 8' 1.53"		
庶路2号橋 (フリガナ)ショロ2ゴウハシ	明治通り	北海道白糠郡白糠町西庶路東3条北3丁目4-20					
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)	
北海道白糠町	2018.10.23	庶路川	有	一般道	その他		

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)

点検者				点検責任者		
ダイシン設計(株) 本間 三朝				和田 隆宏		
点検時に記録				措置後に記録		
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合 に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	措置後の 判定区分	措置及び判定 実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ				
	横桁	Ⅰ				
	床版	Ⅱ	漏水・遊離石灰	写真003,床版01		
下部構造		Ⅰ				
支承部		Ⅰ				
その他		Ⅱ	漏水・滞水	写真006,伸縮装置01		

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

点検時に記録		措置後に記録	
(判定区分)	(所見等)	(再判定区分)	(再判定実施年月日)
Ⅱ	床版に遊離石灰(錆汁)、伸縮装置に漏水、舗装に段差、ひびわれが見られる。橋面防水、漏水対策、維持による舗装補修の実施が望ましい。		

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員	起点		終点
2009年	229m	14.50m			

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	42° 59′ 23.47″		
				経度	144° 9′ 21.23″		
恋問3号橋 (フリガナ)コイトイ3ゴウハシ	明治通り	北海道白糠郡白糠町庶路甲区6-1312					
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)	
北海道白糠町	2018.10.24	コイトイ川	有	一般道	その他		

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)

点検者				点検責任者		
道土木・デザイン・和光・太平洋総合特定委託業務共同企業体				和田 隆宏		
点検時に記録				措置後に記録		
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に 記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	措置後の 判定区分	措置及び判定 実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ				
	横桁	Ⅰ				
	床版	Ⅱ	漏水・遊離石灰	写真003,床版05		
下部構造		Ⅰ				
支承部		Ⅰ				
その他		Ⅱ	路面の凹凸	写真006,舗装01		

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

点検時に記録			措置後に記録	
(判定区分)	(所見等)		(再判定区分)	(再判定実施年月日)
Ⅱ	床版に遊離石灰(錆汁)、舗装に段差、排水管にボルト脱落が見られる。橋面防水、維持対応による舗装・排水管補修の実施が望ましい。			

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
2011年	80m	14.50m

起点



終点

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	42° 57′ 39.49″	
				経度	143° 57′ 56.58″	
大秋中央橋 (フリガナ)タイシュウチュウオウバシ	白糠3号幹線	北海道白糠郡白糠町和天別1164-6				
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
北海道白糠町	2018.09.19	馬主来川	有	一般道	その他	

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)				点検者	道土木・デザイン・和光・太平洋総合特定委託業務共同企業体	点検責任者	和田 隆宏
点検時に記録				措置後に記録			
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合 に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	措置後の 判定区分	変状の種類	措置及び判定 実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ					
	横桁						
	床版	Ⅰ					
下部構造		Ⅱ	うき・剥離・鉄筋露出	写真004,下部工01			
支承部		Ⅰ					
その他		Ⅱ	舗装の異常	写真006,舗装01			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)				措置後に記録	
点検時に記録					
(判定区分)	(所見等)			(再判定区分)	(再判定実施年月日)
Ⅱ	橋台沓座にうき・剥離、舗装にひびわれ、排水管に広範囲な表面錆、護岸に変状が見られる。必要に応じ補修を実施することが望ましい。				

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
2001年	14m	7.50m

起点



終点

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。